



「ウォーカー」氏著
通貨論第二十編
英國ノ交換紙幣ヲ論ス



414
A1122
10

通貨論

第二十編

英國ノ交換紙幣ヲ論ス

峯源次郎譯

大正十一年四月
隈侯爵邸寄贈



上章ニ開陳セシモノハ即チ英國ニ於ルニ派ノ經濟家
シテ甲ハ通貨主義乙ハ銀行主義ト題スル論題ヲ掲
ケ論述セシ議論ノ要旨ナリ、而テ余輩ハ今此章ニ於テ
通貨主義議論者ノ持論漸次世間ニ勢力ヲ得テ終ニ一千
八百四十四年該持論ニ基テ銀行條例ヲ制定スルニ至
リシ顛末ヲ考究セント欲ス

ロルド、ラハーストン氏云ク通貨歴史ノ暗世ハ一千八
百十九年ヲ以テ其終ヲ告ケリ、蓋シ該年ニ至ル迄ハ英國
銀行支配人常ニ銀行主義ヲ保守シ善良ノ銀行事業ハ
國內ニ善良ノ寶貨ヲ與フルニ必要ナルコトヲ主張セ

リ、而テ英國銀行ハ右一千八百九十年三月二十五日ニ
於テ左ノ如キ考案ヲ國會撰任委員ニ報告セリ
「論者アリ貿易ノ權衡ヲシテ我國ニ利ナラシメテ以テ
金銀塊ヲ國內ニ流入セシムルニハ唯英國銀行ガ其紙
幣ノ發行高ヲ減縮スルノ一手段アルノミト主張セリ、
是レ我銀行総員ノ黙々ニ看過スル能ハサル所ナリ、而
テ我銀行総員ハ千思萬考スルモ斯ノ如キ異論ニ何等
ノ確實ナル道理アルヲ知ル能ハサルコトヲ報告スル
ノ以テ我輩ノ義務ナリト思惟ス」

然リト雖トモ當時右銀行支配人ノ意見ハ用ヒラレス
シテ止ムニ至レリ、夫レ一千八百十九年ニ於テ紙幣交
換禁止條例ヲ廢棄シ實地其交換ニ復歸スルノ利害調
査ノ為メ上下兩院ヨリ撰任シタル委員ハ則チ交換主

義論者ノ定論ニ基テ其報告ヲ編成セリ、是故ニ往昔專
ラ實際ニ施行セラレテ英國寶貨制法ノ由テ以テ制理
セラルヘキ根法ナリト輿論ノ是認セシ^ス所謂實地主義
ハ終ニ廢棄セラレ通貨主義論者ノ常ニ論述セシ通貨
主義始テ實際ニ行ナハレタルハ是此時ニアリト云フ
モ決シテ其正鵠ヲ失スル者ニアラス「^スロルド、^スラバース
ト」氏著ス所ノ雜論第五十三葉ヲ視ヨ
「^スロルド、^スラバースト」氏ハ銀行者ナリト雖トモ喋々
口ヲ極テ英國銀行及ヒ龍動府ガ主張セシ所謂實地
主義ヲ辯駁セリ、「同氏著ス所ノ雜論第四十五葉五十
二葉及ヒ五十三葉ヲ視ルベシ」^ス「^スラバースト」氏ノ如キハ元來甚シキ異論ヲ唱ユル人ナリト雖
トモ此点ニ於テハ實ニ「^スラバースト」氏ト其意見ヲ

同フセリ〔同氏著ス所ノ通貨原論第一葉ヨリ第六葉
迄ヲ視ルヘシ〕

「ロルド、フバーストン」氏云ク通貨ノ理義ニ就キ人智
ノ発達シタルヤ抑モ一千八百三十二年英國銀行營
業免狀ノ改正ニ先テ國會撰定銀行調査委員ヲ撰任
シタル時ヲ以テ通貨主義ノ第二進歩トス、蓋シ此時
ニ於テ銀行支配人中、有識ナル者ノ該委員ニ報告セ
シ銀行事業ノ證明書ハ此時ヨリ僅々十三年前同一
ノ事情ニ付キ報告セシ證明書ニ比スレハ實ニ驚ク
ヘク精粗ノ差異アツテ甚シク進歩シタルコトヲ觀
ルヘキナリ〔同シク雜論第五十八葉ヲ視ルベシ〕
銀行紙幣上ニ緊要ノ事件多ク此調査ノ時ヨリ始マ
ル、喻ヘハ英國銀行營業實地ノ計算ヲ報告スルカ如

キ該銀行ニ準備セシ金銀貨幣ノ額高ヲ報告スルカ
如キ及ヒ稍通貨主義ヲ用ヒ以テ英國銀行紙幣及ヒ
地方銀行紙幣ヲシテ外國貿易ノ狀態ニ由テ制理セ
ラレシムルカ如キ即チ是ナリ〔「リビー」氏著ス所ノ商
業史第二百〇四葉ヲ視ヨ〕

抑モ通貨ノ主義ニ就キ輿論及ヒ銀行ノ意見ニ斯ノ如
ク非常ノ變動ヲ生シタルニ拘ラス紙幣發行ニ關スル
英國銀行ノ狀態ニ就テハ通貨主義論者猶其未タ完全
ナラサルヲ痛論セリ、乃チ銀行準備金ニ定額ナキカ如
キ紙幣ノ發行權ニ制限ナクレテ或ハ過度ニ發行シテ
終ニ準備金銀地金ヲ尽スニ至ルコトアルカ如キ或ハ
預金ニ減額アルカ故ニ準備金銀地金ノ減額ヲ對應平
等スルニ足ルト妄信スルカ如キ是ナリ〔「ロルド、フバース

ストン氏著ス所ノ雜論第三百二十八葉ヲ視ヨ
右「ラバーストン」氏ノ意見ニ據レハ該幣害ノ禍原ハ畢
竟一銀行ニシテ發行銀行及ヒ預金元ニ割引銀行ノ兩
職掌ヲ兼ヌルニ因由スルナリ

夫レ銀行業務ト紙幣發行トノ間ニ緊要ノ關係ナキハ
經濟家ノ皆同意スル所ナリ

「プロフェッソル、グライース」氏云ク銀行業務ト紙幣發行ト
ノ間ニハ元來親和適切ノ關係アルニアラス、然ルニ此
ヲ結合シ置クハ實ニ不測ノ騷擾ヲ醸生スル禍原ナリ、
蓋シ此結合タルヤ恰モ全通貨ヲ毒スル病根ノ如シ、或
ハ一種ノ解明スヘカラサル異元素ノ如ク已レ他物ニ
結晶スル能ハサルノミナラス又他種諸元素ノ結晶ス
ルヲ妨クルナリ「同氏著ス所ノ通貨原論第一百四葉ヲ

視ヨ

「ホルマン」氏モ亦「グライース」氏ト同說ナリ云ク讀者若シ
通貨ノ主義ニ就キ正當確實ノ考案ヲ得ント欲セハ先
リ其胸裏ニ於テ紙幣發行業務ト銀行者ノ適當ナル業
務ヲ織組スル他ノ諸業務トヲ明カニ分離シ置クニア
ラサレハ能ハザルナリ

「ニコルソン」氏云ク紙幣發行ノ業務ハ寶貨ヲ新制スル
ナリ、銀行業務ハ既ニ寶貨ヲ發行セシ後之ヲ活動スル
ナリ「同氏著ス所ノ交易論第四十六葉ヲ視ヨ」
然リト雖トモ右銀行業務ト紙幣發行業務トノ間ニ緊
要ノ關係ヲ有セサルノ主義ニ就テ「ロルド、ラバース
トン」氏ノ如ク精密ニ闡陳シタルモノアルヲ觀ス
夫レ發行銀行ハ通貨ヲ新製スルヲ掌トルモノトス、預

金兼割引銀行ハ其通貨ヲ活動運用スルヲ掌トルモノ
トス、故ニ発行銀行ノ専務ハ即チ確實ノ抵當ニ基テ紙
幣ヲ発行シ一定ノ規則ヲ設テ其発行流通高ヲ制理ス
ル方略ヲ施スニアリ、又預金兼割引銀行ノ専務ハ即チ
可成丈社會全通貨ノ大部分ヲ占領シ最大ノ利潤ヲ得
テ其通貨ヲ活動運用スルニアリ、[「]ロルド、ラバースト[」]ニ
氏著ス所ノ雜論第三十一葉ヲ視ヨ[」]右二種業務ノ基ク
所ノ理由ハ全ク別種ニシテ之ヲ一定ノ制規ニ從ハシ
ハル能ハサルヤ明カナリ[「]同[」]レノ雜論第六十三葉三十
葉一百十五葉一百三十九葉一百四十二葉一百八十一
葉二百十九葉^{参考セヨ}
抑モ銀行業務ト紙幣發行トノ間ニ緊要ノ關係ナキコ
トニ至テハ理財家皆同說ナリト雖トモ一銀行ニシテ

両業務ヲ兼掌スルハ大ナル禍源ナリト云フニ至テハ
「[」]ト[」]ク[」]氏及ヒ銀行主義ノ論者皆之ヲ非認セリ、蓋シ之
ヲ非認スルノミナラス及テ右二業務ヲ一管掌ノ下ニ
アラシムレハ大ニ冗費ヲ省クヘキノミナラス各業務
ノ施行一層精密完全ニシテ功績ヲ社會ニ為スコト一
層多カラント主張セリ

上ト反對シ通貨主義ノ論者ハ右両業務ノ兼務ヲ以テ
災害ノ禍源ナリト論シ、銀行者ハ必ス投機買込ト利害
情感ヲ同フスルヲ以テ一度ヒ其風勢ノ發生スルコト
アレハ忽チ紙幣ヲ發行スルニ至ル、故ニ通貨發行業務
ト預金業務ヲ兼務スルハ道理上ニ於テモ實地上ニ於
テモ混乱騷擾ヲ惹起スル禍源タルヲ免カレス

「[」]ロルド、ラバースト[」]ニ氏著ス所ノ雜論第三十二葉三

十九葉六十二葉一百一十五葉一百四十三葉一百七十七葉二百四十九葉及二百五十葉ヲ参觀セヨ

上節ノ理由ナルカ故ニ英國銀行ニ於テ銀行業務課ト發行業務課トヲ分離スルハ即チ「バーストン」字汎ハ理財家カ其持論ニ從テ該銀行ノ紙幣發行ヲ實際ニ制理スル第一歩ト思惟セシ所ナリ、乃チ一千八百四十年ニ於テ「ロルド、ラバーストン」氏論シテ云ク實貨事務ノ取扱ヲ善良ナラシメント欲セハ二業務ノ兼務ヲ分離スルニアラサレハ能ハサルナリ云々、假令之ヲ分離スルモ「スリードニードル」街ノ英國銀行ハ依然主權ヲ執リ王冕ヲ冠シ王笏ヲ持テ右二課ヲ管理スルヲ得ベシ、然リト雖トモ既ニ之ヲ分離スレハ金銀準備金局及ヒ割引事務局ニハ各々大藏省ノ委員ヲ置キ兩局各々其

業務ニ適當シテ其主義ニ應合シタル一種ノ規則ヲ以テ之ヲ別々ニ管理セザルベカラス、而テ二局相ヒ獨立シ甲局ノ状況乙局ノ利益幸福ヲ害シ、乙局ノ状況甲局ノ利益幸福ヲ害スルカ如キ弊害ヲ鋤除スベシ「ラバーストン」氏著ス所ノ雜論第一百四十五葉ヲ視ヨ
一千八百四十四年ノ條例ニ由テ右兼務ノ分離ヲ決行セリ、故ニ今日英國銀行ニ於テ二業務課ノ區別判然タルコト猶我政府ニ稅關局ト内國收稅局トノ別アルカ如シ、蓋シ該決議條例ニ由テ英國銀行ハ抵當ヲ入テ一千四百萬封度ノ紙幣ヲ發行スルヲ許サレ、又該條例ニ由テ若シ地方銀行ニシテ紙幣發行業務ヲ廢止スルコトアラハ英國銀行ハ内閣ノ認許ヲ得テ該地方銀行ノ發行許可ヲ得タリシ額高ノ三分ノ二ヲ「抵當ヲ入レテ」

發行スルコトヲ許サレタリ、故ニ之カ為メ有抵當發行
高ハ増シテ一千五百萬封度トナレリ、サレドモ英國銀
行右額高ノ外ニ猶紙幣ヲ發行流通スルトキハ其發行
高ニ同額ノ貨幣若シクハ金銀地金ヲ準備セサルヲ得
ス、此方法ニ由テ一層多額ノ紙幣ヲ發行スルト然ラサ
ルトニ至テハ固ヨリ支配人ノ任意ニ為シ得ヘキ所ニ
アラス、又法律ニ由テ英國銀行ハ金塊ヲ賣ラント云フ
モノアレハ何人ヲ論セス毎「ラレス」ニ付キ三封度十七
志九邊ニ於テ之ヲ買取ルモノトス

一、一千八百四十四年ノ條例ハ一千八百四十五年ノ決
議條例ニ由テ追加補遺セラレシト雖トモ余ハ此條
例ノ總体ヲ指テ一千八百四十四年ノ條例ト云フナ
リ

ニ、^ニ「マクラレン」氏云ク地方銀行其發行ヲ廢止シタルカ
為メ英國銀行代テ紙幣ヲ發行スルノ建議ハ原ト該
銀行支配人ノ發議ニ出ルニアラス政府ノ命ニ由テ
支配人^ニ之ヲ建議シタルナリ「同氏著ス所ノ通貨史第
二百八十二葉ヲ視ヨ」

「プロフェッソル、プライス」氏英國銀行ヲ評シテ自^ノ動機ト
云ヒレハ蓋シ發行業務課カ全ク支配人ノ任意ナル取
扱ヲ免レタルヲ以テノ意義ナリ、同氏著ス所ノ通貨原
理一百三十八葉及ヒ一百四十四葉ヲ視ヨ「同氏云ク發
行業務課ハ最早決シテ英國銀行ノ一課ニアラス該銀
行ノ家屋ヲ藉テ設立シタル別個獨立ノ國立事業ニシ
テ政府制定ノ制規ニ由テ管理セラレ、全ク銀行支配人
ノ任意ナル取扱ヲ脱却セシモノナリ

前頭取「ニ」ベス、且嘗テ云ク、發行業務課ハ全ク余輩ノ
権限外ニアウテ又余輩ノ自由ニ管理スル所ニアラズ、
實ニ余輩ハ國會ノ決議條例ニ從ヒ準備金ヲ監守スル
受托者タルニ過キス、假令該銀行ノ債主ト雖トモ紙幣
持主ノ為メ準備セル金額ハ決シテ之ヲ動カスヲ得ス、
上文ニ開陳セシ紙幣ノ發行ヲ制理スル第一歩ニ加フ
ルニ余輩ハ一千八百四十四年決議條例ノ第二綱目即
チ「ラバーストン」氏學派經濟家ノ所見ニ據レハ該條例
ニ由テ紙幣ノ浮沈伸縮ヲ貨幣ノ浮沈伸縮ニ適合セシ
ムルノ理由ヲ確定シタル事實ヲ以テセサルヲ得ス、又
レ有抵当流通紙幣ノ額高タルヤ之ヲ一千五百萬封度
即チ國內流通貨幣ガ時變ノ為メ減縮セラレ得ル最小
ノ額高ニ稍々下ル高ニ確定シ、而テ^必其額高ニ超過スル

通貨ハ全ク貨幣ヨリ組成セラル、何トナレハ右額高ヲ
超テ英國銀行五封度紙幣一枚ヲ發行セント欲スルモ
必ス之ニ同額ノ貨幣ヲ預カルニテラサレハ能ハス、故
ニ又之ヲ預テ一枚ノ五封度紙幣ヲ發行セハ之ヲ流通
上ヨリ消失セント欲スルモ不慮ノ災害ヲ除クノ外其
持主タル者之ヲ送致シテ預金五封度ト交換スルニア
ラサレハ能ハサルナリ

一、有抵当流通紙幣ノ定額ニ超過スル紙幣ハ皆其超過
高ニ同額ノ金銀預金ノ預リ證券タルニ外ナラス、
「コルソニ」氏著ス所ノ交易論第四十葉ヲ視ヨ、
英國銀行ハ條例上其貨幣準備金額ノ四分ノ一ヲ銀
塊ニテ備ヘ得ベシ、サレトモ條例上金ヲ買ハサルヲ
得サルノ義務アリテ銀ヲ買ハサルヲ得サルノ義務

ナレ、是故ニ一千八百四十七年貿易上ノ危運ニ際シ
英國銀行ハ銀ヲ買フヲ拒辞シ或ハ之ヲ抵當ニ引当
テ前金ヲ代與スルヲ辞セリ、ゴールド、ラバーストン氏
ハ此處置ヲ以テ正當ノ事ト是認セリ、乃チ同氏云ク
金ヲ以テ通貨ノ本位トナス國ニ於テハ銀ハ即チ商
賣品ナリ、他ノ商賣品ト同一ニ取扱ハザルヲ得ス、夫
レ銀行ヲシテ強テ商賣品ヲ抵當ニ引當テ前金ヲ貸
與セシムルハ未タ其當ヲ得ルモノニアラス〔同氏著
ス所ノ雜論第二百九十九葉ヲ視ヨ〕

ゴールド、ラバーストン氏ノ說ニ據レハ該銀行條例ノ主
義ハ二種ノ目的ニアリトス、即チ其一ハ準備金額ヲ一
定不變ニナス事、其二ハ紙幣ノ伸縮ヲ預金貨幣ノ伸縮
ニ適合セシムルコト是ナリ、蓋シ同氏ハ此二目ヲ實行

シテ始テ適當ニ自由銀行事業ノ實アリト論セリ

〔同氏著ス所ノ雜論第六葉第七葉第二十七葉第六十
葉第七十七葉及ヒ第七十八葉ヲ視ヨ〕

「人民若シ金貨ヲ銀行ニ預クレハ從テ必ス通貨ヲ増加
シ、若シ其預金ヲ取出ストキハ從テ必ス通貨ヲ減少ス、
蓋シ此点ニ於テハ人民實ニ十分ノ自由ヲ得テ法律モ
政府モ之ニ干涉スル能ハス、是故ニ通貨ノ額高ヲ伸縮
スルカ勢ハ緊密ニ公衆ノ掌中ニアリ」〔雜論第三百二十
葉ヲ視ヨ〕

上ノ理由アルヲ以テ坤輿ノ最大銀行タル英國銀行ハ
紙幣ノ発行者紙幣ノ製造者ニアラサルヲ知ル、又龍動
府ノ諸令本銀行ノ如キハ驚クヘク盛大ニ預金割引ノ
業務ヲ勵クト由トモ其勢力ノ旺盛若シクハ利潤ノ増

進ヲ聊カ紙幣ノ流通ニ倚マサルナリ、龍動府銀行ニ一
個モ紙幣ヲ發行シ得ルモノナシ、又一千八百四十四年
五月六日以来ニ開業セル銀行ハ皆勿論發行スルヲ
得ス、而テ當時既ニ開業セル銀行ト雖トモ其發行高
該日限以前ノ尋常流通高ニ限レリ、然リト雖トモ「アイ
ルランド」及ヒ「スコットランド」ノ諸銀行ニ至テハ其發
行紙幣ニ對應スル貨幣ノ同高ヲ有スルモノニ限リ一
千八百四十四年ノ流通高ヲ超テ銀行紙幣ヲ發行スル
ヲ得ルナリ

「アイルランド」及ヒ「スコットランド」ニ於テハ銀行紙
幣未タ合法通貨ニアラス、サレドモ英國ニ於テハ英
國銀行紙幣既ニ各地ニ合法通貨ナリ但シ該銀行自
己ト其分局ニ於テハ此例ニアラス

一一

右第二綱目ニ次テ余輩ハ今一千八百四十四年決議條
例ノ第三綱目即テ世間固有ノ利益ヲ害セサル地方
銀行流通紙幣ノ制限ヲ設ケル理由ヲ開陳セサルヲ得
ス、抑モ通貨主義論者カ一千八百四十四年以前ニ於テ
通貨ニ非常ノ過度伸縮ヲ生セル所以ノ大禍源ナリト
論セルモノハ即テ右地方銀行紙幣ニアリトス
一千八百三十七年ニ於テ「ロルド、ラバーストン」氏論シ
テ云ク「吾人ハ英國銀行ニ任スルニ通貨ノ價格ノ浮沈
ヲ制理シ且ツ貨幣ニテ其全額ヲ交換スルノ義務ヲ以
テス、サレトモ之カ為メ該銀行ニ賦與スルニ紙幣發行
ノ特權若シクハ地方銀行紙幣ノ發行ヲ直接ニ抑制ス
ル權ヲ以テスルコトナカリシ」

同氏著ス所ノ雜論第十二葉、第十四葉第十五葉第

九十一葉第九十六葉第一百七十九葉第二百二十一
葉第二百五十六葉第三百五十葉及ヒ第二百五十一
葉ヲ參觀セヨ

一千八百四十年ニ於テ「ロルド」氏又論シ
テ云ク「我國ノ地方銀行紙幣ニ向テ異論スヘキ所ノ最
モ重要ナル点ハ抑モ地方銀行紙幣タルヤ正真ノ財理
ヨリ必ス成果セサルヘカラサル事實ニ反對シ又流通
貨幣ノ顕像ニ背馳シ以テ其伸縮ヲ物價ト同フスル事
是ナリ」ト「ローレン」氏當テ云ク英國銀行若シ其紙幣ノ減
紙ヲ命スレハ地方発行銀行ハ之ニ抵抗スルコトナク
シテ其命ニ服從シ而テ常ニ損害ヲ蒙ルヘリト「ロルド」
氏「バーストン」氏此考案ヲ批評シテ云ク此レ未ダ正鵠
ヲ得タルモノニアラス、同氏若シ英國銀行ヨリ発行減

縮ヲ命スル時ニ當テ地方発行銀行ハ常ニ最初ニ之ニ
抵抗シ次ニ損害ヲ蒙リ而テ後終ニ其命ニ服從スト言
ヒシナラハ一層正真ノ事實ニ幾キヲ得タルヘシト余
輩ハ確信ス

〔同レノ雜論第一百〇一葉ヲ視ヨ〕

一千八百二十六年ニ於テ「トリーク」氏論シテ云ク抑モ地
方銀行ノ紙幣タルヤ物價將ニ騰貴セントスルノ狀態
アルカ若シクハ人新事業ヲ開設スルノ好時機ト想像
スルカヨリ世間ニ投機買込ノ風勢ヲ惹起スルノ情勢
ヲ顯ハストキハ必ス大ニ其流通高ヲ増伸シ、右ニ反對
スルノ情勢ナレハ必ス大ニ其流通高ヲ減縮スルニ至
ルナリ

一千八百二十年ニ於テ「サー、ゼーハムス、グラハム」氏論

レ云ク紙幣ヲ過度ニ発行スル時ニ當テ地方銀行者
紙幣ヲ発行スルヤ著レク英國銀行ノ発行ニ起過ス、
而テ紙幣發行減縮ノ時ニ當テヤ其減縮常ニ必ス英國
銀行ヨリモ一層甚クシテ其底止スル所ヲ知ラス
條例ヲ以テ英國地方銀行及ヒ「アイルランド」并ニ「スコ
ットランド」諸銀行ノ紙幣發行上ニ確定シタル制限内
ニ於テ一千八百四十四年及ヒ一千八百四十五年ノ決
議條例ニ後ヒ右諸銀行ノ發行セシ有担当發行高ハ即
チ左ノ如シ但シ英國銀行ノ發行紙幣ヲ除ク
英國及ヒ「アールス」
スコットランド
アイルランド
三、〇六三、〇〇〇同
六、三五四、四九四同
一八、一〇七、四三一同
合計

一千八百六十六年六月三十日ニ於テ發行許可ヲ得タ
ル銀行紙幣ノ額高ハ一千六百三十六萬〇一百四十封
度トリ、而テ實際發行シタル額高ハ一千四百六十八萬
七千五百四十六封度ナリ

「ハンキー」氏著ス所ノ銀行論第十二葉ヲ視ヨ
一千八百七十五年十月二十七日ニ於ル通算ノ報告
ヲ觀ルニ英國地方銀行ハ云何ナル場合ニ於テモ發
行ノ定額〔但シ一千八百四十四年前ニ發行シタル尋
常流通高ナリ〕ヲ超テ發行スル能ハサルカ故ニ其流
通高ハ僅々一百三十六萬五千九百十封度即チ稍右
定額ニ下ルナリ、然リテ雖トモ「アイルランド」及ヒ「ス
コットランド」ノ諸銀行ハ條例上其増加發行紙幣ニ
同額ノ貨幣ヲ有スルトキハ一千八百四十四年ノ發

行高ヲ超テ奏行シ得ルノ権アルヲ以テスカ爲メ「ア
イルランド」ノ諸銀行ハ一百八十八萬四千三百六十
九封度ヲ發行シ、「スコットランド」諸銀行ハ三百四十
八萬九千一百四十六封度ヲ發行セリ、而テ當時「アイ
ルランド」諸銀行ノ有セシ金銀地金ハ三百三十九萬
三千〇〇一封度ニシテ、「スコットランド」諸銀行ノ有
セシ金銀地金ハ四百四十萬一千八百四十九封度ナ
リシ

一千八百四十四年決議銀行條例ノ利害

抑モ一千八百四十四年決議銀行條例ハ世論ノ甚シク
討論爭議セシ論題ナリ、蓋シ此主義ニ就キ論者互ニ相
駁論スルコトノ甚シキヤ實ニ一場ノ論戰ヲ顯シ来レ
リ、是故ニ「ベレヲツト」氏ノ如キハ其大著撰「ロムバルド、
ストリート」ニ於テ特ニ右主義ヲ論陳セサルモノハ此
主義ニ熱心スル論者ノ怨恨ヲ招カンコトヲ恐ルハカ
故ナリト辨明セリ

「人若シ少シニテモ一千八百四十四年決議條例ヲ論陳
スルコトアラハ他ノ主義ニ就テ其意見ヲ陳フル所ア
ルモ人シヲ注目セサルヘキヲ以テ聊モ其意見ニ勢力
ノ得ル能ハサルベシ、然リト雖トモ一度ヒ右銀行條例
主義ニ論及スルコトアレハ忽テ世間ノ論者皆右主義

關係スル文ノ文ヲ抜キ出シ或ハ之ヲ駁撃シ或ハ之
 讚成防禦シ恰モ毀譽ノ焼点トナルベシ、嗚呼右條例
 ニ就キ其決議ノ時ヨリ以來今日ニ至ル迄世間論者ノ
 互ニ相々討論爭議シ相々辯駁仇敵スルコトノ劇烈ナ
 ルヤ該主義ニ係ル一文章ハ他ノ主義ニ係ル論說ノ一
 卷ヨリモ世論ノ是非ヲ受ルコト多シトス、蓋シ此主義
 ニ執中スル論者ニ派アリ各々互ニ相敵視ス、若シ新論
 者アリ論場ニ顯ハルハトキハ二派共ニ該新論者ニ向
 テ必ス先ツ卿ハ余輩ニ與スルモノカ或ハ余輩ニ敵ス
 ルモノカノ疑問ヲ以テス、而テ他ノ事理ニ就テハ又考
 究スルノ勞ヲナサルハナリ

「ベジツット」氏著ス所ノ「ロムバルド、ストリート」第二
 葉ヲ視ヨ

「プロフェッソル、プライス」氏ハ一千八百四十四年ノ決議
 銀行條例ヲ以テ英國銀行紙幣ヲ少シモ鞏固堅牢ナラ
 シメタル功アルモノニアラスト主張セリ、抑モ此趣旨
 ニ就テハ該條例ノ主張者即チ通貨主義論者モ亦之ヲ
 是認スル所ナルヲ知ル、蓋シ其故ハ夫レ通貨主義ノ本
 旨タルヤ人民ニ善良ノ寶貨ヲ與フルニハ唯善良ナル
 銀行業務ノミノ能ク為シ得ヘキ所ニアラス他ニ之ヲ
 補成スルモノアラサルヲ得スト言フニアリ、夫レ銀行
 若シ貿易際盛百事繁栄ノ時ニ當テ其發行高ヲ伸張シ
 以テ世ノ需用ニ應シ應分ノ利ヲ領收シ、又社會貿易ノ
 情勢ヨリ緊急ノ需用ヲ通貨ニ生スル時ニ際シハ泥斷
 其果ヲ以テ其所要ニ應シ臨時ノ高利ヲ領スルモ敢テ
 危險ニ近ヨラサルトキハ其紙幣ノ持主タル者該銀行

結局其紙幣ヲ交換シ得ヘキヤ如何ヲ疑フニ由ナキ
ミナラス求ニ應シ直チニ之ヲ交換シ得ヘキヤ如何
ヲモ疑惑スヘキノ理由アラサルベシ、然リト雖トモ如
何セン銀行業務ハ云何ニ善良確實ナルモ紙幣発行ノ
為メ大困難ヲ生産及ヒ貿易上ニ釀生シ終ニハ之ヲ衰
頹零落ニ至ラシムルコトアルハ決シテ免ルヘカラサ
ルナリ

上節ニ関示シタル通貨主義ノ本旨ヲ言ヒ愛ユレハ乃
チ全社會殊ニ貿易及ヒ製造社會ハ必スシモ常ニ銀行
ト利害ヲ同フスルモノニアラス、故ニ銀行其自己ノ利
益ヲ圖リ紙幣ヲ発行スレハ自カラ社會ノ利益トナル
ナリ公益ノ為メ発行ニ制限ヲ設クルニ及ハスト言フ
カ如キコトハ萬々アラサルノ理ナリト言フニ外ナラ

ス
供シナカラ「プライス」氏ハ一千八百四十四年決議銀行
條例ヲ以テ英國銀行紙幣ヲ少シモ鞏固堅牢ナラシメ
シモノニアラスト主張スト雖トモ該條例カ地方銀行
紙幣ヲ制理セシ功ニ至テハ同氏ノ全ク是認セシ所タ
ルヲ知ル

「プライス」氏云ク該銀行條例ノ效用ニ就キ英國ノ地方
銀行紙幣ハ英國銀行ト全ク其情勢ヲ異ニス、蓋シ地方
銀行ハ往時ヨリ破産シタルモノ數百個ナリ是皆暗愚
ニシテ將來ノ損害ヲ前知スルノ智力ナク濫リニ紙幣
ヲ発行シ終ニ其資産ヲ破リシモノニ外ナラス、而テ其
災害ノ及フ所ハ銀行者自己ニ止マラス其発行紙幣ヲ
所持スル人々モ亦大損害ヲ蒙ムレリ云々抑モ斯ノ如

ノ其業務ヲ適當ニ取扱ヒ能ハサル銀行者ハ皆寶貨ヲ
公衆ニ供スル職務ヲ委任スルニ足ラサル人タルヲ識
者ヲ待タスレテ知ルヘキナリ、實ニ此輩ハ右職務ヲ委
任スルニ足ラサル不良ノ發行者不良ノ紙幣製造者ナ
リ、之ヲ信用スルニ足ラサルヤ猶不良ノ造幣局ニシテ
其鑄造金貨ノ本質ニ信ヲ置キ能ハサル者ノ信任スル
ニ足ラサルカ如シ、然リト雖トモ此幣害ハ一千八百四
十四年決議ノ銀行條例ニ由テ醫治スルヲ得タリ、論者
アリ或ハ該條例ニ向テ云何ナル異論ヲナスモ其實行
セラルハ間ハ一千八百二十五年ニ於ル災害ノ如キ財
政大困難ヲ再ヒ見サルヤ疑ヲ容ルヘカラサルナリ
「^アライス」氏著ス所ノ通貨原論第二百三十六葉及ヒ
第一百三十七葉ヲ視ヨ

コ、ニ於テ銀行主義論者ハ又通貨主義論者ヲ駁論ス、
夫レ地方銀行紙幣ノ往昔社會ニ流毒セシハ不良ノ發
行者不良ノ紙幣製造者之ヲ發行シタルニ由ル、而テ其
時ノ銀行者皆善良ナル銀行事務ノ法則ヲ遵守セサリ
シ、又此輩ノ發シタル通貨ハ其實交換紙幣ニアラス、夫
レ往昔地方銀行ノ世間ニ流毒セシモノハ斯ノ如ク發
行者ノ不良ナルニ由ルカ故ニ善良ノ銀行業務ハ善良
ノ寶貨ヲ人民ニ與フルノ功アルベシ、而テ其發行紙幣
果シテ正真ノ交換紙幣ナルトキハ世間ノ所要ニ過度
ノ額高ヲ流通上ニ持續シ能ハサルノミナラス之ヲ發
行シ能ハサルナリト云フ銀行主義ノ本旨ヲ妨ケサル
アリ
此ニ於テ一千八百四十四年決議銀行條例ノ立案者及

主張者ハ上文ノ論旨ニ反對シ該條例ノ效用ハ善良ノ結果ヲ地方銀行紙幣上ニ及ホセシコトノ外又大ニ英國ノ生産及ヒ貿易ヲ利益セシコトヲ證明スルノ止ムベカラサルニ至レリ、然リト雖トモ此事理ヲ證明スルハ元來其事情ノ本質ヨリ觀ルモ困難ノ事タリ、況ヤ之カ説明ヲ障碍スル事實モ亦少ナカラサルニ於テヤ

右銀行條例カ著シク生産及ヒ貿易ヲ利益シタルコトヲ證明スル進路ヲ障碍セシ事實ハ即チ二種アリ、第一ニ割引相場ノ浮沈カ英國ニ於テ一千八百四十四年決議銀行條例ノ實施前ヨリモ實施後ニ一層屢マニシテ該條例決議ノ後ニ於テモ其浮沈歐洲ニ於ル他ノ都會ヨリモ一層龍動ニ屢マナリシ事、第二ニ財政上止ヲ得

サルノ情勢ヨリ政府ノ干涉ヲ以テ三度ヒ右條例ノ實行ヲ停止シタル事

一、ロベルドハキストル氏左ノ事實ヲ開示セリ、銀行條例ヲ實施シタルヨリ前十一箇年間ニ利息ノ割合ノ高低セシ度数二十八度ナリシ、後十一箇年間ニ於テハ一百〇六度ナリシ、夫レ前十一箇年間ニ於ル利息割合ノ平均高低高ハ一分ニ下レリ、而テ後十一年間ニ於ル右高低ノ平均高ハ一分ニ超ヘリ、又一千八百四十四年ヨリ一千八百六十六年ニ至ル二十二箇年間ニ於テ英國銀行ニ於ル利息割合ノ高低ハ一百三十度ナリシト雖トモ佛國銀行ニ於テハ其高低僅々五十二度ニ過キサリシナリ、(同氏著ス所ノ一千八百六十六年財政困難論第十五葉ヲ視ヨ)

余輩ハ今右二種ノ事實ヲ轉置シ、先ツ第二ノ事實ヲ論
究シ、次ニ第一ノ事實ニ論及スベシ、抑モ財政上ノ情勢
ヨリ銀行條例ノ實行ヲ止ラ得サルニ停止シタルヤ通
貨主義ノ論者ハ其停止ノ為メ該條例ノ有益上ニ少シ
モ傷ケラレサルコトヲ主張ス、唯ニ之ヲ主張スルノミ
ナラス、反テ右停止ノ事實ヲ取テ議論上自己ノ持論ヲ
鞏固ナラシムルニ利用セリ、而テ右停止ノ事實ヲ以テ
反テ已カ持論ヲ鞏固ナラシムルノ利アリト言フノ意
見ハ該條例決議ノ後ニ附會セシ考案ニアラス、該條例
ノ將來停止セラルハコトアルヘキハ之ヲ議決スルノ
前ニ於テ既ニ立案者ノ精シク預知セシ所ナリ、是レ通
貨主義論者ノ證明シ得ヘキ所ナリ、是故ニ「ロルド、ラバ
ースト」氏一千八百四十年ニ於テ英國銀行業務課分

離考案ト題セル雜誌ヲ著シテ之ヲ世ニ公ニセリ、是レ
一千八百四十四年「サー、ロベルト、ピール」氏建議案未決
ノ間ニ出版セシモノナリ、乃チ同氏該雜誌ニ於テ例外
非常ノ情勢ニ際シ甚シク金貨ノ濫出スルニ當テ一定
ノ法制ヲ維持スルハ反テ社會ヲ禍スルニ至ルヘキヤ
然ラサルヤノ論題ヲ論究シ、而テ其決案ヲ掲ケリ、即チ
其決案ニ云ク夫レ金貨ノ濫出若シ之カ豫防ノ政策ヲ
決行セサルヘカラサルノ危殆ニ至ラハ其政策ハ一定
ノ法制ニ由テ通貨ヲ管理スルノ方畧ヲ全廢スルニア
ラスシテ國家緊急非常ノ場合ニ當リ實行セサルベカ
ラサル政府ノ臨時干涉權ヲ用ユルノ一手段アルノミ、
「同氏著ス所ノ雜誌第二百八十二葉ヲ第三百。一葉第
三百。二葉ニ參觀セヨ」

斯ノ如ク通貨主義論者ハ該條例ノ決議前ニ於テ既ニ
將來之ヲ停止スルコトアルヘキヲ是認セリ、故ニ一千
八百四十七年一千八百五十七年及ヒ一千八百六十六
年ノ三停止ハ非常ノ場合ニ際シ臨機應変ヲ以テ一定
ノ法制ヲ行政上ニ適宜ニ寛和シタル活動変通ノ政畧
ニシテ實ニ確實有益ノ方略ナリト論究スルモ敢テ溢
美ニアラサルナリ

一千八百四十四年決議條例ノ停止トハ何ノ意義ナル
乎ト問ハ、世論皆是レ此國ニ於テ貨幣ヲ以テ紙幣ヲ
交換スル業務ヲ停止シタルノ義ナリト解ス、而テ此主
義ニ関スル著撰一トシテ一千八百四十四年以來英國
銀行三度ヒ其交換ヲ失敗セリト論述セザルハナキナ
リ、然リト雖トモ一千八百四十四年ノ決議條例ヲ停止

シタルカ為メ決シテ求ニ應シ金貨ニテ紙幣ヲ交換ス
ル該銀行ノ義務ヲ欠キシモノト認ムヘカラサルナリ
蓋シ該銀行ハ一千八百二十一年ニ於テ紙幣交換ヲ固
復セシヨリ以來未タ當テ交換ヲ誤リシコトアラザル
ナリ、何トナレハ政府ノ干涉ヲ以テ交換停止ヲ止ヲ得
サルニ決行シタルハ發行業務課ノ困難ニ由ルニアラ
スシテ銀行業務課ノ緊急ニ因由スルカ故ナリ
抑モ一千八百四十四年決議條例ノ停止タルヤ其趣旨
ハ即テ他ナシ、條例上英國銀行ハ一千五百萬封度ノ定
額ヲ超ヘテ銀行紙幣ヲ發行セント欲セハ其超過高ニ
對應スル同額ノ金銀預金ヲ有セサルヲ得サルノ制規
ナリ、然ト雖トモ政府特例ヲ以テ三度ヒ該制限ヲ釋キ
銀行ヲシテ求ニ應シ貨幣ニテ紙幣ヲ交換スル責任ハ

依然之ヲ負擔セシムルモ之ニ一時該制限ニ拘ラス其
業務ヲ取扱フヘキ特權ヲ許可シタルニ外ナラサルナ
リ、夫レ斯ノ如ク三度迄條例ノ制限ヲ釋クト雖トモ英
國銀行ハ實際唯一度該制限ノ停止ヲ自己ニ利用セシ
メ、即チ一千八百五十七年ニ於テ其發行定額ヲ超ヘ
テ八十萬封度ヲ發行セシコト是ナリ

英國ニ於ル割引相場ノ騰貴低落ハ一千八百四十四年
條例決議前ヨリモ一層以後ニ屢々ニシテ又其高低歐
州他ノ府會ヨリモ一層龍動府ニ屢々ナリト云フ第一
種事實ノ異論ニ向テ一千八百四十四年議決銀行條例
ノ主張者即チ通貨主義論者ハ左ノ如ク答辨ス、夫レ一
千八百四十四年以來斯ノ如ク割引相場ノ高低屢々ナ
ルモノハ全ク通運ノ便利一層進歩シタルト近來通商

貿易ノ大ニ増進擴充セシトニ因由スルナリ、又他ノ都
會ヨリモ割引相場ノ高低一層龍動府ニ屢々ナル所以
ノモノハ元來龍動府ハ萬國為換取引ノ中心ナルヲ以
テ坤輿何レノ地方ヲ論セス理財上ニ貿易上ニ混淆擾
乱ヲ生スルコトアレハ仮令ヒ他ノ地方ニ影響セサル
モ必ス龍動府ニ影響スルヲ免レサルニ由ルナリ、蓋シ
龍動府ニ右ノ情勢ヨリ發生スル弊害アルハ又該府ニ
「バー」氏ノ言フ如ク坤輿ノ為換場タルノ大利益アル
所以ナリ

余輩ハ今英國ノ通貨ヲ制理スル政畧ノ理由ヲ此迄ヨ
リモ一層精密ニ考究スルヲ得ヘキ論點ニ歸着セリ、夫
レ一千八百十九年以前ニ於テヤ英國銀行支配人ハ其
業務ヲ取扱フニ當リ常ニ其定規トシテ以テ遵奉セシ

モハ外國貿易ノ情勢若シクハ金塊ノ價直ニアラス
レテ、銀行割引ノ需用ト既ニ各個人ニ貸附シタル金高
ト世人ガ其銀行紙幣ヲ信スルノ情勢ト其紙幣カ重ニ
貿易上ノ使用ニ需要セラルハ形勢トヲ常ニ觀察スル
ニアリ、然リト雖トモ是レ此等ノ事ハ善良ナル銀行規
則ヲ遵奉スルニ過キサルナリ抑モ一千八百十九年ニ
於テ英國銀行支配人ハ總員會議ノ議決ヲ以テ其考案
ヲ國會撰任銀行調査委員ニ建議シテ世間ニ異論者ア
リ今若シ貿易ノ權衡ヲレテ我國ニ利アラシメ金銀地
金ヲ我國ニ流入セシメント欲セハ英國銀行其紙幣發
行ヲ減縮スルノ一手段アルノミト論述スルハ果シテ
何ノ理由ニ基ツクヲ知ル能ハスト建言セリ、然レモ當
時當局者ハ右銀行ノ意見ニ反對シテ同年終ニ紙幣交

換條例ヲ議決セリ、是レ余輩ノ既ニ上文ニ於テ陳述セ
レ所ナリ、然リ而テ一千八百二十七年ニ至テハ銀行支
配人大ニ其前持論ヲ變シ殆ト一千八百十九年ノ考案
ヲ廢棄セシモノ、如シ、又一千八百三十二年英國銀行
營業免狀改新ノ時ニ於テヤ該銀行支配人ハ紙幣發行
制限ノ主義ニ就キ猶一層甚シク前持論ヲ變更セシヲ
觀ル、夫レ其時ヨリ一千八百四十四年ニ至ル迄世論ノ
是認セシ所ノ發行制理主義ハ即テ右ノ如シ、乃テ紙幣
ノ發行高ハ常ニ外國為換權衡ノ情勢ニ從テ之ヲ裁制
シ、而テ其為換ノ權衡我國ニ利ナルト利ナラサルトラ
確認スルニハ英國銀行ニ準備スル金銀地金ノ増減ヲ
以テ其定規トス、從テ又紙幣ヲ流通高ハ該銀行ニ準備
スル金銀塊ノ額高ノ増減ニ從テ伸縮セシムヘキモノ

ト云ハ、是則チ一千八百三十二年ヨリ理論上既ニ通貨
ノ発行ヲ裁制スヘキ理由タリシカ故ニ「ロルド、ラバー
ストン」氏學派ノ理濟家ハ一千八百四十四年ノ決議條
例ヲ以テ唯右理由ヲ十分實際ニ舉行セシメタルモノ
ニ外ナラスト確信セリ

外國為換ヲ論ス

外國為換ノ主義ニ就キ最モ貴重スヘキ著撰四部ア
リ、乃チ「ゴスセン」氏著ス所ノ外國為換書、「ニコルソン」
氏著ス所ノ外國為換論、「テート」氏著ス所ノ為換家必
携一名ハ為換要論、「レード」氏著ス所ノ金銀塊及ヒ外
國為換論是ナリ、又「ウイールヤムブラーク」氏嘗テ現成
紀ノ始ニ於テ世ニ公ニセシ為換論ハ當時該主義ニ

就キ最良ノ著撰ナリシト雖モ近來ニ於ル著述ノ
完全ナルニ如カス

「ゴスセン」氏云ク外國為換ナル語ハ其意義兩義不定ニ
シテ為換自己ヨリモ一層其為換ノ依テ仕遂ケラル、
相場ヲ言ヒ顯スニ用ユルコト屢々ナリトス、即チ之ヲ
約言スレハ外國為換ナル語ハ為換ノ取引ヲ指スコト
ヨリモ寧ロ其相場ヲ指スニ用ユルコト屢々ナリトス、
抑モ外國為換ノ主義タルヤ其單純ノ場合ヲ舉テ論ス
レハ、**〔甲〕**一外國人アリ其自國ヨリ此國ニ償還スヘキ負
債ヲ有セリ、而テ此國ニ於ル其債主タル者**〔乙〕**ハ自己ニ
其負債ヲ請取ラスレテ其負債ノ若干金額ヲ以テ此國
ニ居リナカラ彼國ニ寶貨ヲ入用スル**〔丙〕**集ニ譲リ渡ス、
〔丁〕ハ即チ此讓ヲ得テ彼國ニ於テ己カ拂ヒ渡サハル

ラサルノ債主〔丁〕某ニ償還決算スルモノトス〔同氏〕
著ス所ノ外國為換書第一葉又ニ第二葉ヲ視ヨ
「ニユーヨーク」ノ乾物品輸入者或時五百萬「ドル」金
額ノ英國品ヲ「チカゴ」州「北米合衆國ノ一州」州ニ賣渡シ、
又「ニユーヨーク」ノ穀物輸出者五百萬「ドル」金
額ノ穀物ヲ「チカゴ」州ヨリ英國ニ輸出スト假定セシ
ニ、然ルトキハ「ニユーヨーク」ノ穀物輸出者ハ右五百萬
「ドル」金ヲ「チカゴ」州ニ送附シ、「チカゴ」州ノ
乾物品賣捌商ハ右五百萬「ドル」金ノ乾物品代金ヲ「ニ
ユーヨーク」ニ送附スヘキ乎是レ無益ノ費耗ヲ為シ不
測ノ危険ヲ冒スモノタルヤ識者ヲ待タスレテ明カナ
リ、故ニ此方法ニ代フルニ「チカゴ」州ノ乾物品賣捌商
ハ應分ノ利潤ヲ得テ其物品ヲ國內ニ賣捌キレ後「ニユー

ヨーク」ノ乾物品輸入者ノ書狀報知ノ意ニ從ヒ五百
萬「ドル」金ヲ以テ「チカゴ」州ノ穀物積出者ニ拂ヒ渡シ、
而テ穀物積出者ハ右五百萬「ドル」金ノ請取金ニテ穀
物生産者ニ拂ヒ且已カ利潤ヲ領ス、然リ而テ「ニユーヨ
ーク」ノ穀物輸出者ハ若干ノ利潤ヲ得テ該穀物ヲ英國
龍動府ニ賣捌キ、其代金五百萬「ドル」金ヲ以テ「ニユー
ヨーク」ノ乾物品輸入者ニ拂ヒ渡スベシ、然リト雖トモ
「ニユーヨーク」ノ乾物品輸入者カ其輸入物品ノ代價ヲ
拂ヒ渡スヘキ所ハ「ニユーヨーク」ニアラスレテ遠ク英
國龍動府ニ於ル該國西部ノ製造者ニアリトス、此ヲ以
テ「ニユーヨーク」ノ乾物品輸入者ハ同州ノ穀物輸出者
ト約定シ該輸出者ヲシテ英國ノ「ニユーヨーク」ニ於テ
「ニユーヨーク」ノ穀物ノ代金ヲ持テ歸ラスシテ其穀物買手ニ

爲換手形ヲ引出スヘキ權ヲ已レニ讓リ渡サシム、
夫レ斯ノ如クニシテ約定成ル而テ「ニューヨーク」ノ乾
物品輸入者ハ始テ英國ニ於ル穀物輸入者ニ對シテ其
債主トナリ、直チニ書状ヲ右英國ノ穀物輸入者ニ送り
之ニ命シテ其負債ヲ英國ニ於ル粗毛布廣幅毛布ノ如
キ乾物品製造者ニ拂ヒ渡サシムルモノトス、以上論陳
スル所ニ由テ余輩ハ内外直接為換ノ單純ナル場合ヲ
知ルニ十分ナリト信ス、右ノ為換法ニ由テ「チカゴ」ト
「ニューヨーク」トノ間若シクハ「ニューヨーク」ト「ロンド
ン」トノ間ニ一錢ノ寶貨モ動クコトナキヲ觀ルナリ
余輩ハ今一步ヲ進ミ英國支那及ヒ合衆國ノ交通貿易
ヲ藉テ間接外國為換法ヲ説明セント欲スルナリ
合衆國ハ支那ニ輸出スルコト僅少ニシテ支那ヨリ輸

入スルコト巨多ナリ、故ニ支那ニ對シテ其借主タリ、又
一方ニ於テ英國ハ支那ヨリ輸入スルコト巨多ナリト
雖トモ該國ニ輸出スルコト猶一層巨多ナルカ故ニ支
那人ニ對シテ其債主タリ、抑モ此場合ニ於テ支那ハ為
換法ニ依リ合衆國ニ向テ云ク、貴國ヨリ我國ニ拂ヒ渡
サルヘキ金額ハ我此証狀ヲ證固ニシテ英國ヘ拂渡シ
テ請フト、既ニシテ合衆國右金額ヲ英國ニ拂渡ストキ
ハ、實際金貨ヲ以テ先ツ「ニューヨーク」ヨリ廣東ニ送附
シ廣東ヨリ「リブルプール」ニ送附スルカ如キ無益ノ費
耗危險ヲ避ケ免カルヘキナリ
「マクレラド」氏云ク外國為換ノ間接法ハ為換ノ裁決ナ
リ、云云三箇國ノミ其為換ニ關係スルモノハ之ヲ名テ
裁決ト言ヒ、三箇國ニ超過スルモノハ之ヲ雜合裁

上文ノ説明ニ由テ為換ト名クルモノハ唯常ニ商人ノ
間ニ行ハル、貸借差引勘定齊消ノ理由ヲ以テ交通貿
易諸國ノ間ニ應用スルニ外ナラサルヲ知ル、然リト雖
トモ外國為換ナルモノハ通例外國ノ寶貨ニテ貸借ノ
計算ヲ為スモノナルカ故ニ仮令實際ニ於テ内國貨幣
ヲ外國貨幣ト両替スルコトナキモ或ハ更ニ寶貨ヲ運
送セスレテ為換ノ取引ヲ仕遂ケ終ルモ必ス外國為換
ナル術語ヲ保持シテ之ヲ區別スルナリ
余今更ニ寶貨ヲ運送セスレテ為換ノ取引ヲ仕遂ケ終
ルト云フモノハ、即チ甲國ト乙國トノ間ノ相互貸借若
シクハ甲國ト乙丙丁諸國トノ間ノ相互貸借カ所謂為
換ノ裁決ヲ施スニ當テ同高同時限ナル時ニ唯然ルハ

キヲ言フナリ、然リト雖トモ當今諸國通商貿易ノ情勢
ヲ觀察スルニ貸借上ニ斯ノ如ク平等均一ノ權衡ヲ顯
スハ蓋シ極テ僅少ナルヲ知ル、抑モ一周年間百般ノ貿
易取引ヨリ生スル萬國相互貸借ノ權衡ヲ確認スルニ
固ヨリ其貸借ヲ惹起シタル^{一々}許多ノ原由ヲ測算スト雖
トモ其貸借決算期限ニ自カラ差異アルヲ免カレサル
カ故ニ一周年中某時季ニ償還セサルヲ得サル負債高
ト云フニ至テハ諸國各其額高ヲ異ニセサルヲ得ス、是
レ甚タ觀易キ理由ナリ、喻ヘハ甲乙二國アリ全年ヲ往
過スル間ニハ終ニ双方其貸借平均ヲ得ルニ至ルベシ
ト雖トモ又甲ハ春ニ於テ償債ノ巨額ヲ有シ乙ハ秋ニ
於テ償債ノ巨額ヲ有スルコトアリ

何國ヲ問ハス其國ヨリ他國ヘ拂フヘキ負債ノ額高ト

一國ヨリ其國へ拂フヘキ負債ノ額高トノ間ニ差異ヲ生スル所以ノ原由ハ世論皆之ヲ税関ノ貿易報告ニ示スカ如キ輸入カ輸出ニ超過シ輸出カ輸入ニ超過スルニ歸セリ然リト雖トモ是レ未タ萬國相互貸借ノ權衡ヲ確認スル完全ノ方法ニアラス、ゴスセン氏ノ嘗テ記示セシ他ノ原由ハ即チ左ノ如シ、第一運賃及ヒ保險料、蓋シ貿易品ハ其輸出輸入ノ運送ヲ共ニ一國ノ領スルコトアリ、又往還ノ航海共ニ一國ノ保險者及ヒ積出者之ヲ保險スルコトアリ、貿易ノ權衡屢々英國ニ利ナルハ蓋シ此原由ニ拠ルナリ、第二外債ノ利息、居留外國人ノ儲金ニシテ各其本國ニ送附スル金額、及ヒ外國傭人ノ俸給ニシテ各々其親族ニ送附スヘキ金はナリ、米國ニ於テ其貿易上ノ借金

高大ニ増加スルハ右ノ諸原因ニ拠ルナリ、第三外國旅行費、第四外國ニ出陳セル陸軍及ヒ外海ニ繫泊スル軍艦ノ諸仕拂金はナリ

夫レ甲乙ニ地方若シクハ二國間ニ貿易ノ權衡精密ニ平均スルトキハ為換相場必ス並價ナルベシ、上文ニ舉示セシ場合ニ於テ龍動府ヨリ「ニユーヨーク」ニ拂フ、キ金額ハ猶「ニユーヨーク」ヨリ龍動府ニ拂フヘキ金額ニ均シキカ故ニ「ニユーヨーク」ノ各商人ハ容易ニ龍動府へ拂ヒ渡スヘキ負債ヲ其面價額ニテ買取り、龍動府ノ各商人モ亦「ニユーヨーク」へ拂ヒ渡スヘキ負債ヲ其面價額ニテ買取り得ベシ、故ニ人今甲國ニ於テ金塊ヲ拂ヒ渡シタルカ為メ乙國ヲシテ純金ノ同量ヲ代理者ニシクハ為換券ヲ送り其他ノ人ニ拂ハサシメ得ル乎、

或ハ甲國ニ於テ銀塊ヲ拂ヒ渡シタルカ爲メ純銀ノ同
量ヲ乙國ニ活動使用シ得ルキハ、是則チ爲換相場ノ
並價ヲ得タルナリ

甲國ハ金ヲ以テ合法本位貨幣トシ、乙國ハ銀ヲ以テ
合法本位貨幣トスルトキハ、其兩國間ニ爲換相場正
真ノ並價ヲ觀サルベシ、^{「マクレラド」}氏著ス所ノ理財
原論第二卷第二百九十章ヲ視ヨ

^{「ゴスセン」}氏云ク銀ヲ以テ合法貨幣トスル諸國ニ於
テヤ金ハ唯高賣品タルニ過キス、又金ヲ以テ合法本
位貨幣トスル諸國ニ於テヤ銀ハ唯高賣品タルニ過
キス、夫レ該高賣品價直ノ高低スルニ從テ爲換相場
モ亦浮沈スルモノトス

上文ノ場合ト反對シ英商ヨリ米國ニ拂フヘキ金額著

シク米商ヨリ英國ニ拂フヘキ金額ニ超過スルコトア
ルニ至テハ、從テ情勢上文ト異ナリ、米商ニシテ英國ヨ
リ寶貨ヲ請取ルヘキ権理ヲ有スル者若シ其権理ヲ英
商ニシテ合衆國ニ寶貨ヲ仕拂フヘキ者ニ譲リ渡スト
キハ、其貸金ノ面價額ヨリモ一層多額ニ賣リ渡シ得ベ
シ、其故何トナレハ英商ノ米國ヨリ請取ルヘキ金額ハ
米商ノ英國ヨリ請取ルヘキ金額ヲ償還スルニ足ラサ
ルヲ以テナリ

上節ト反對シ英商ニシテ合衆國ヨリ寶貨ヲ請取ルヘ
キ権理ヲ有スル者若シ其受領ノ権理ヲ米商ニ賣ルト
キハ其面價額ヨリモ稍低價額ナラサルヲ得ス

夫レ斯ノ如キ爲換手形ノ割増ハ騰貴シテ何レノ点ニ
至ルヘキ乎、必スヤ金銀ノ輸出ヲ總憑スルニ至テ止ム

ヘキナリ、喻ハハ上文ニ引用セシ場合ヲ以テ論センニ、
英國ヨリ拂テ受クヘキ権理ヲ有スル米商若シ其受領
ノ権理ヲ賣ルニ英國ニ於テ金ヲ購買スル代金ト之ヲ
合衆國ニ運送スル運賃ト其航海ノ保険料ト臨時ノ雜
費トヲ合算スル總高ヨリモ一層多額ヲ要求スルトキ
ハ、英商ニシテ債ヲ合衆國ニ償還スヘキ者ハ右受領ノ
権理ヲ買ハスレテ金塊ヲ合衆國ニ送附スベシ

佛國ノ為換相場若シ毎封度ニ付キ二十五「フランク」
十「センナム」ナルトキハ、金塊ヲ英國ヨリ佛國ニ運送
スルニ至ルベシト雖トモ、二十五「フランク」三十五「セ
ンナム」ナルトキハ、金塊ヲ佛國ヨリ英國ニ運送スル
ニ至ルヘシ、造幣局ノ並價ハ二十五「フランク」二十二
半「センナム」ナルカ故ニ右二十六「フランク」十「センナ

ムト二十五「フランク」三十五「センナム」トノ二相場ハ
各々造幣局並價ヨリ十二「センナム」半即チ毎百ニ付
キ五厘ヲ差スルモノニシテ、又右二相場間ノ差額ハ
二十五「センナム」即チ毎百ニ付キ一分ナリ、「レイド」氏
著ス所ノ金銀塊及ヒ外國為換論第三百九十四葉ヲ

視ヨ

人若シ甲國ニ於テ金塊ヲ拂ヒ渡シタルカ為メ純金ノ
同量ヲ乙國ニ於ル其代理者若シクハ為換券ヲ送り其
他ノ人ニ拂ヒ渡サシムルヲ得ハ、是レ甲乙二國間ニ為
換相場其並價ヲ得タルナリトハ余輩既ニ上文ニ陳述
セシ所ナリ、此理由ニ據テ觀察スレハ外國為換ナルモ
ハ交通貿易諸國ノ貨幣中ニ含有スル純金ノ重量ヲ
本トシテ取引スルモノナルヤ明カナリ、故ニ何國ヲ問

ハス一國ノ貨幣其夾雜ノ割合ヲ下シ其純金若シクハ
純銀ヲ減少スルコトアラハ之カ為メ忽チ外國為換上
ニ影響スヘシ、抑モ歐洲北部ニ於テ初テ^ニ銀行ヲ創設セ
レ所以ノモノハ蓋シ右為換上ニ及フヘキ弊害ヲ鋤除
センカ為メナリ

一英國物品ヲ海外ニ輸出シ其代リニ寶貨ヲ拂ヒ渡サ
ル、モ其請者タル英商ノ注意スル所ハ該外内貨幣
ノ面價格ニアラスレテ其含有スル所ノ純金銀ノ重
量ニアリ、^{「ゼー」}ハス、ミル氏著ス所ノ保護貿易論ヲ視

ニ奇怪ナル哉初メ銀行事業ヲ創設シタルヤ緊密ニ貨
幣ノ含有スル純金銀ノ本量ヲ一定セント欲スルニ
過キサリシカ、終ニ驚クヘキ新事業發明ノ原由トナ

レリ「アルスキ」氏著ス所一千八百六十八年十月出
版ノ經濟雜誌ヲ視ヨ

「アダム、スミス」氏云ク和蘭國「アムステルダム」府ハ往昔
ヨリ諸國ト貿易通商スルコト甚メ盛大ナリシカ故ニ、
一千六百〇九年前ニ於テ外國貨幣ノ或ハ其縁ヲ剪斷
セテレ或ハ摩耗用壞セシモノ夥シク歐洲各國ヨリ輻
集シ、為メニ該府通貨ノ價格ヲ低落シ、造幣局ヨリ發行
スル新良貨幣ノ價格ニ下ル殆ト九分ノ多キニ至レリ、
斯ノ如キ新良ノ貨幣一度ニ該府ノ流通上ニ顯レシヤ
奸商アリ忽チ竊カニ之ヲ熔解シ、或ハ之ヲ海外ニ輸出
セリ、是レ右ノ如キ通貨ノ情勢ニ於テ常ニ免カルヘカ
ラサル結果ナリ、是故ニ該府ノ商人復令巨額ノ通貨ヲ
得ルニ由ナキニアラスト雖トモ、善良ノ貨幣ニ至テハ

常ニ為換手形ト交換ハルニ十分ナル金額ヲ得ル能ハ
ス、從テ為換手形ノ價格著シノ動搖シテ確實ナラス、反
令ニ種々ノ法制ヲ設テ其動搖ヲ制限セント試ミシモ
更ニ其効ヲ觀サリシナリ

上文ノ弊害ヲ醫センカ為メ一千六百〇九年ニ「アムス
テルダム」府ノ保護ヲ以テ一銀行ヲ設立シ之ヲシテ外
國貨幣及ヒ摩耗用壞セル内國貨幣ヲ買ヒ取ラシメリ、
但シ新貨幣鑄造費及ヒ其事務取扱費ヲ支辨スルニ必
需ノ金額ヲ折准スルノ外全ク其實價ニテ買取ラシメ
リ、然リ而テ右僅々ノ費額ヲ折准シ殘ル價額ヲ該銀行
ニ預リ其代リトシテ該銀行ヨリ借証券ヲ渡ス、此証券
ヲ銀行寶貨ト名ケリ、抑モ此銀行寶貨クルヤ其國造幣
局ノ定法ニ適合スル合法本位貨幣ヲ代理セシモノナ

ルカ故ニ其價格動搖スルノ憂ナキノミナラス、當時ノ
流通貨幣ヨリモ一層高價ナルニ至レリ、又條例ヲ制定
シテ「アムステルダム」府ニ當テ引出シ若シクハ同府ニ
於テ取組ミシテ為換手形ニシテ其面額六百「ギル」餘
ノモノハ皆銀行寶貨ヲ以テ交換スルモノト確定セリ、
之カ為メ忽テ為換手形價格ノ動搖ヲ鋤除シ得タリ
夫レ何國ヲ問ハス國內ニ流通スルノ寶貨重ニ不良ノ
貨幣〔但シ重量若シクハ夾雜ノ低下セル貨幣ヲ云〕ヨリ
組織スルトキハ之カ為メ為換上ニ影響シ、從テ貿易上
ニ不利ヲ惹起スルハ上文ニ於テ余輩ノ既ニ觀察セシ
所ナリ、又紙幣ニシテ求ニ應シ貨幣ニ交換セサルモノ
ハ其害猶不良ノ貨幣ヨリ甚シトス、「ベジツト」氏云ク
紙幣價格ノ低落タルヤタトヒ甚タ僅少ナルモ或ハ未

タ實地低落ニ至ラスレテ將ニ低落セントスルノ形勢
アルノミナルモ、必ス為換ノ取引ヲ混乱スルニ足ルナ
リト、而テ又一千八百七十一年以來巴里府カ坤輿中為
換ノニ大燒点ノ一タル勢力ヲ失ヒ、龍動府銀行者ヲシ
テ實際其勢力ノ全局ヲ獨占セシメ以テ坤輿ノ貿易ヲ
直接ニ支配スル特權ヲ掌握セシムルニ至リシ事實ハ、
ベジラツト氏之ヲ右ノ如ク紙幣ノ價格低落シタルニ
起因スト論セリ、是レ上文ニ於テ余輩ノ既ニ引用セシ
所ナリ、夫レ僅カニ低落シタル紙幣ニシテ其弊害果シ
テ斯ノ如シハ、既ニ甚シク世間ノ所要ニ過度ナル上ニ
其動搖浮沈極リナキ紙幣ニ至テハ從テ又其弊害ノ甚
大ナル識者ヲ待タスレテ明カナリ、論者アリ不換紙幣
ノ便益ヲ主張スルコトアラハ、今一步ヲ讓リ不換紙幣

ハ貨幣ヲ發行スルニ免カルヘカラサル全費用ヲ省ク
ノ利アリトスルモ、該紙幣低落ノ為メ交通貿易ヲ混乱
シ、萬國ノ為換取引上ニ動搖浮沈ヲ惹起スルノ弊害ヲ
開明國ニ補償スルニ足ラサルナリ

余輩ハ斯ノ如ク為換主義ノ用理ヲ畧論シ以テ論歩ノ
針路ヲ掃除シタレハ、再ヒ外國為換ノ情勢ニ從テ銀行
紙幣ノ發行ヲ制理スル英國ノ政策ヲ論述セント欲ス

銀行紙幣發行ト外國貿易ノ關係ヲ論ス

「ロルド、ラバーストン」氏云ク貿易ノ權衡我國ニ不利ナ
ル情勢ヲ顯ストキハ、是レ國內ノ寶貨ト國內ノ物品ト
其尋常ノ關係ヲ失ヒ、物品ヲ輸出スルヨリモ寶貨ヲ輸
出スルカー層有益トナリシ徵候ナルヲ知ル、故ニ若シ

此徴侯ヲ顯スコトアルトキハ速ニ銀行者ニ令シテ紙幣ノ流通高ヲ裁制シ、實貨ト物品トノ關係ヲ舊ニ回復セシメ、而テ物品ノ巨量ヲ輸出スルコト一般社會ノ有益トナリ實貨ノ輸出ヲ停止スルニ至ラシムベシ〔同氏著ス所ノ一千八百四十年出版發行銀行ニ告クルノ論ヲ視ヨ〕
抑モ此説タルヤ取モ直サス過度ノ紙幣國內ニ流通スルコトアルニアラサレハ物品ノ代リニ金銀ヲ輸出スルノ弊害ヲ生スルコトナカルベシト云フ「リカルト」氏ノ持論ニ據テ立論シタルモノナリ
「ロルド」ヲバースト「氏」又云ク夫レ財政ノ安全鞏固ナランコトヲ欲セハ、英國銀行ニ金貨濫出ノ狀勢アルヲ以テ之ニ對應スル減少ヲ紙幣ノ流通高ニナサバハ

カラサルノ徴侯ト考ルノ一手段アルノミ

同シク發行銀行ニ告ルノ論第二十三葉第七十五葉第二百四十二葉第二百四十七葉第二百五十三葉第二百六十五葉ヲ參觀セヨ、夫レ往昔紙幣ノ流通高過度ナリシ時ニ當テ之カ減縮ヲナスヤ常ニ其機ニ晩レ突然暴烈ニシテ又減縮レ過キル弊害アリシカ故ニ、今機ヲ晚レシテ平穩ニ且漸次ニ流通高ヲ減縮スル政策ヲ制定セシナリ〔同シク發行銀行ニ告クルノ論第二百四十三葉ヲ視ヨ〕
夫レ一千八百三十三年ヨリ一千八百三十六年ニ至ル間ニ預メ平穩精巧ノ減縮法ヲ設ケ置カハ、仮令金銀塊ノ減額ハ一千一百萬封度ヨリ減少シテ六百萬封度ニ至ルヲ免カレサルモ、一千八百三十七年ニ懷

裂セシ財政上ノ騷擾混乱ヲ必ス防禦シ得タルベシ
ト信ス、然リト雖トモ如何セン當時右善良ナル減縮
法ノ豫設ナキカ為メ忽チ金銀塊ノ大減額ヨリ非常
ノ恐怖騷擾ヲ社會ニ惹起スルニ至レリ〔同レク発行
銀行ニ告クルノ論第二百六十葉ヲ視ヨ〕

然リト雖トモ論者アリ、外國為換ノ情勢ニ由テ紙幣發
行ヲ制理スルノ政畧ハ、果シテ一千八百三十年ニ於テ
既ニ英國銀行ノ政畧ナリシトセハ、一千八百四十四年
決議條例ハ云何ナル効果ヲ為遂クルニ緊要ナリトセ
シ乎ト問ハ、之ニ答ルコト難カラス、乃チ其効果タル
ヤ他ナシ、夫レ預金並ニ割引ノ業務ヲ發行業務ト分離
スルニアラサレハ甲乙ノ業務互ニ相毀傷シ、甲業務ハ
常ニ乙業務ニ屬スル感化力ニ由テ害セラレ、乙業務ハ

常ニ甲業務ニ屬スル感化力ニ由テ害セララルコトア
ルヲ免カレス、一千八百四十四年ノ決議條例ハ即チ此
弊害ヲ鋤除スルノ効果アルナリ〔同レク発行銀行ニ告
クル論第一百四十五葉ヲ視ヨ〕抑モ銀行者ハ必ス投機
買込ノ風勢ト利害盛衰ヲ同フレ情感ヲ共ニスルモノ
ナレハ、之ニ通貨發行ノ權ヲ有セシムベカラス、且夫レ
英國銀行若シ往昔ノ如ク兩業務ヲ兼務スルコトアラ
ハ、其首事タル者必スヤ其考案意見ニ於テハ勿論其實
地計算報告等ニ於テモ、常ニ一方ハ預金ト流通紙幣ト
ヲ參雜シ、他ノ一方ハ準備金貨ト抵當証券トヲ合算シ、
〔同レク発行銀行ニ告クルノ論第三十三葉ヲ視ヨ〕以テ
紙幣ノ決シテ有スヘムヲサル鞏固確實ノ形容ヲ顯ハ
シ、自己ヲ欺クノミナラス、一般公衆ヲ着スルコトア

ルヤ疑ヲ容レベカラサルナリ、然リ而テ其實情ヲ觀察
スレハ、銀行準備金ニ定額ナキカ如キ又紙幣ノ發行權
ニ制限ナクシテ發行者ハ其準備金貨ノ全ク尽キルニ
至ル迄之ヲ發行シ得ルカ如キ〔同シク發行銀行ニ告ク
ルノ論第三百二十八葉ヲ視ヨ〕或ハ準備金貨ノ減額ス
ルコトアルモ之ニ對應スル預金ノ減額アツテ兩減相
平等スルニ足ルト妄信スルカ如キ幣害ニシテ足ラサ
ルナリ、〔同シク發行銀行ニ告クルノ論第三十四葉ヲ視
ヨ〕然リト雖トモ預金並ニ割引業務ト發行業務トヲ分
離セシヨリ以來全ク斯ノ如キ幣害ヲ鋤除シ、英國銀行
支配人モ此時ヨリ公衆ヲ欺ク能ハス自己ヲ欺クコト
ナキニ至レリ、且夫レ該分離タルヤ實ニ銀行支配人ノ
任意取扱ニ代用スルニ國會ニシラサレハ變更スル能

ハサル法制ヲ以テセシモノナリ
余輩ハ今進テ一千八百四十四年ノ決議條例ハ外國為
換ニ從テ銀行紙幣ノ發行ヲ裁制スル目的ヲ實際ニ何
程為遂ケタル乎ヲ論述セント欲ス

「マクレラッド」氏云ク一千八百四十四年ノ決議條例々
ルヤ精密ニ通貨主義ニ據テ制定セシモノニシテ、其趣
旨ハ準備金貨が英國銀行ヨリ流出スル時ニ當リ其流
出スル金貨ノ額高ニ均シキ銀行紙幣ヲ流通上即チ公
衆ヨリ引去ルニアリ、是レ當時立案者ノ明言セシ所ナ
リ、而テ當時此條例ヲ制定セシヤ其立案者ハ此條例ニ
由テ、銀行支配人彼令紙幣ノ流通高ヲ減縮スヘキ義務
ヲ怠ルモ、該條例ノ効力ニ由リ之ヲ尽サ、ルヲ得サル
ニ至ルベシト期望セシモノナリ

一千八百四十七年四月ニ至ル迄ハ該條例ノ効力ヲ実
 試スヘキ財政上ノ變動アリシヲ觀ス
 抑モ一千八百四十六年ニ於テ世人ノ知ル如ク理財上
 ニ種々ノ困難ヲ醸生シ、為メニ同年九月ヨリ金銀塊額
 リニ英國銀行ヨリ濫出スルニ至レリ、然リト雖トモ該
 銀行ハ一千八百四十七年一月ニ至ル迄更ニ割引ノ相
 場ヲ變更セサリシガ當時準備金銀塊ハ既ニ減少シテ
 一千四百萬封度トナルヲ以テ終ニ割引ノ割合ヲ騰貴
 シテ三分半トナセリ、サレモ其時ヨリ二週間ノ内ニ一
 百萬封度ヲ減額シタルカ故ニ又割引ヲ引キ上テ四分
 トナセリ、夫レヨリ暫テク此割合ヲ維持セシニ又三百
 萬封度ヲ減額スルニ至レリ、此ニ於テ該銀行ハ又割引
 ノ割合ヲ騰貴シテ終ニ五分トナセリ

英國銀行紙幣

公衆ノ間ニ流通スル 額高	封度	該銀行ニ準備スル 額高	封度	金銀ノ地金總計 封度
一千八百四十六年 八月二十九日	二〇、四二六、〇〇〇	九、四五〇、〇〇〇	一六、三六六、〇〇〇	
九月七日	二〇、九七一、〇〇〇	七、二六五、〇〇〇	一四、七六〇、〇〇〇	
一千八百四十七年 一月九日	二〇、八三七、〇〇〇	六、七一五、〇〇〇	一四、三〇八、〇〇〇	
一月三十日	二〇、四六九、〇〇〇	五、七〇四、〇〇〇	三、九〇二、〇〇〇	
三月六日	一九、二七九、〇〇〇	五、七一五、〇〇〇	一一、五九六、〇〇〇	
四月三日	一九、八五五、〇〇〇	三、七〇〇、〇〇〇	一〇、二四六、〇〇〇	
四月十日	二〇、二四三、〇〇〇	二、五五八、〇〇〇	九、八六七、〇〇〇	

上表ニ據テ明カニ該銀行條例ハ準備金銀地金ノ減少

スルコトアルニ際シ公衆ノ手ヨリ流通紙幣ヲ引去ル
ノ効力アリトノ考案ハ全ク荒唐無稽ノ妄説タルヲ知
ル、其故何トナレハ金銀地金ノ減少シテ九百八十六萬
七千封度トナリシ時ニ於テ紙幣ノ流通高ハ金銀地金
ノ有高ガ一千六百三十六萬六千封度ナリシ時ト著シ
キ差異ヲナサス即チ格別ノ減少スルナキカ故ナリ、抑
モ何ヲ以テカ此失敗ヲ来タセシヤ是レ他ナシ左ノ甚
々單純ナル事情ニ因由ス、乃チ該條例ノ立案者臆測
ヲク英國銀行ヨリ金貨ヲ取出スヘキ途ハ其紙幣ヲ送
致シテ之ヲ交換スルノ唯一手段アルノミ、故ニ人民若
シ金貨ヲ銀行ヨリ取出サント欲スルトキハ必ス紙幣
ヲ送附セサルヲ得ス、金貨外ニ出ツレハ紙幣必ス内ニ
入ラサルヲ得サルナリト、然リ、雖トモ單純ナル銀行

事業ノ區域ニ於テ猶銀行ヨリ金貨ヲ取出スノ手段ニ
種アリ、紙幣ノ交換ト小引手ノ引換是ナリ、夫レ銀行ニ
貸預ノアル人々ハ銀行ニ至リ小切手ヲ送り以テ銀行
業務課ヨリ金塊ヲ取出シ得ルナリ、サレモ之カ為メ一
銀行紙幣ヲ公衆ノ手ヨリ減セサルナリ
抑モ銀行支配人ハ實際ニ於テ紙幣ヲ公衆ノ手ヨリ引
去ルヘキ銀行條例ノ趣旨ヲ達スル能ハスレテ然ニ反
テ金貨濫出ノ影響ヲ全ク自己ノ準備金上ニ及ホセリ、
其然ル所以ノ理由ハ即チ左ノ如シ、夫レ公衆ハ銀行業
務課ヨリ金貨ヲ取出スニ紙幣ト小切手トノ二手段アリ
ト雖トモ、銀行業務課カ発行課ヨリ金貨ヲ取出スニ
ハ其準備紙幣ヲ発行課ヘ送附スルノ一手段アルニ、
此ヲ以テ英國銀行其銀行業務課ニ金貨濫出ノ攻撃ヲ

受テシ時ニ當テヤ其金貨ノ欠ヲ補償スルニハ必ス其
請取金ニ同額ノ準備紙幣ヲ出シ渡サハルヲ得ス、是故
ニ金貨ノ濫出ハ其影響全ク銀行自己ノ準備金上ニ及
ベリ

又金貨多ク海外ニ濫出シ交換ノ要求驚駭屢々紙幣上
ニ發生シ以テ斯ノ如キ騷擾混乱ヲ理財上ニ来スコ
ト少ナシトセス、此弊害ヲ醫治スルノ手段ハ英國銀
行ノ銀行業務課ヨリ政府ノ發行業務課ヲ全ク分離
シ、而テ政府ハ自カラ紙幣ヲ發行シ自カラ金貨ヲ準
備シ求ニ應シテ其紙幣ヲ交換シ、又該銀行ハ國內ノ
他ノ銀行ノ如ク其職務ヲ其主顧客ノ資財ヲ預リ及
ヒ返却スルコトノミニ限リ少シモ通貨ニ關係スル
コトナカラシムルニアリ

コトナルト、ハキステル氏著

ス所ノ一千八百七十六年六月出版統計雜誌ヲ視ヨ
夫レ銀行紙幣ノ流通高ハ宜シク通貨ヲ純然タル貨
幣ノミニシテ實際ニ其流通シ得ヘキ額高ニ均シカ
ラシムベシト云フノ論ハ固ヨリ至極結構ノ議論ナ
リ、且余輩ノ既ニ觀察セシ如ク此理由ニ基テ設立シ
タル銀行モ亦少ナカラサルナリ、然リト雖トモ此理
由ニ據テ設立セシ銀行ハ皆嘗テ利益ヲ得ラルヘキ
銀行業務ヲナセシモノニアラス、又之ヲナサント欲
スルモ決シテ能ハサルナリ、斯ノ如キ性質ノ銀行ハ
實ニ純然タル預金銀行ナリ、而テ少シモ割引ノ業務
ヲナサバ爾モノナリ

原論第二編第四百七十四節ヲ視ヨ

然リト雖トモ余輩ハ今「マクレ」氏ノ説ニ同意シ

テ該銀行條例ハ、金貨海外ニ濫出スルニ際シテ銀行ニ
準備セシ金銀地金ノ減額ニ對應シ紙幣ノ同高ヲ流通
上ヨリ減少スヘキ効力ナキカ故ニ、實際ニ全ク其目的
ヲ失敗シタルモノト決案スヘキ乎、サレバ未タ俄ニ此
說ニ同意スル能ハサルナリ、蓋シ該條例ノ立案者ハ之
ヲ制定スルノ前ニ於テ既ニ此ノ如キ事情ノ必ス實際
ニアルヘキヲ期待セリ、而テ該條例ノ失敗モ立案者ノ
既ニ前知セシ所ニ過キスト云フモ可ナラン、夫レ「リ
ルド」氏「ロルド、フバーストン」氏「ホルマシ」氏ノ如キハ皆
國內ニ存在スル金銀地金ヲ以テ實際世間ニ流通スル
寶貨ト同様ニ物價ニ影響スルモノト論述セリ、故ニ右
諸論者ノ理由ニ據レハ金銀地金ハ國內ニ輸入セラルハ
コトアラハ從テ物價騰貴シ物價騰貴スレハ其割合ニ

又物品ノ輸入ヲ總憑スルナリ、キレニ反シ金銀地金海
外ニ輸出セラルコトアラハ從テ物價低落シ物價低
落スレハ其割合ニ物品ノ輸出ヲ總憑スルナリ

一又夫レ通貨ノ價格合法本位ニ下ラサル國ニシテ若シ
金銀地金ノ國內ニ増加スルコトアルトキハ寶貨ノ
額高ニ増加ヲ生セサルヲ得ス「リカルド」氏カ「ボサン
クエト」氏ニ答ルノ文ヲ視ヨ

一千八百四十四年決議銀行條例ニ反對論者ノ持論ヲ
觀ルニ、其要旨ハ即チ巨額ノ金銀地金ヲ國內ニ輸入ス
ルコトアルモ、其金銀地金カ寶貨ト変シ世間ニ流通シ
以テ物價ニ影響スルコトハアラサルナリ、又一方ニ於
テハ政府海外ノ費用ノ為メ金貨ヲ外國ニ送附スルカ
如キ或ハ外國ニ資本ヲ即スカ如キ或ハ未製造物ヲ我

ニ輸入スル諸國ニ於テ歳ノ凶歉アルカ如キ或ハ國內ニ收獲ノ凶歉アルカ如キ諸原由ヨリ金銀地金著一ノ海外ニ溢出スルコトアラシ、仮令此事アルモ〔右反對論者ハ皆「リカルド」氏及ヒ「ロルド」ヲバーストン氏ノ持論ヲ駁撃シ斯ノ如キ諸原由ヨリ金貨ノ溢出ヲ惹起スルコトノ必スアルヲ主張セリ〕其輸出セラル、金銀地金若シクハ貨幣ハ皆銀行者ノ準備金及ヒ其他ノ蓄藏金ヨリ取出サルハモノニシテ、現ニ流通スル貨幣ヨリ取出スモノニアラスト云フニ外ナラス、故ニ一千八百四十七年ニ於テ「ワイルソン」氏モ論シテ云ク、英國ニ於テ金貨ニ非常ノ溢出ヲ生セシコト一ニシテ足ラス、サレ氏之カ為メ未タ曾テ公衆ノ間ニ流通スル宝貨ヲ減シタル例ヲ觀スト、斯ノ如クニシテ金銀地金ハ其著シキ

額高ヲ海外ニ輸出シ若シクハ之ヲ國內ニ輸入スルモ決シテ^要通貨ノ情勢ニ指響キ以テ物價ニ影響スルコトナキノ考案ハ既ニ理財上輿論トモナルヘキ勢ヒナリシテ觀ル

ニ金貨幣若シクハ全寶貨ノ内恃リ常ニ公衆ノ手ニアツテ物品ノ交易ヲ為遂クルニ使用セラル、分部ノミ之ヲ名テ通貨ト稱ス、^{「ワイルソン」氏著ス所ノ財本通貨銀行三論第十七葉ヲ視ヨ}又時ノ情勢ニ由リ金銀地金ノ著シキ輸入アルニ際シ為ニ反テ國內ノ通貨ヲ減少スルコトアリ〔同シク第二十一葉ヲ視ヨ〕抑モ此論タルヤ英國ノ執權「サーロバート、ピール」氏ノ制定セシ銀行條例ノ理趣ト「ロルド、ヲバーストン」氏「ルマン」氏「トルレン」氏等ノ盛ニ主張セシ通貨主義

ノ趣旨トニ直接ノ反對ヲナスモノナリ、何トナレハ
此輩ノ論者ハ皆金銀地金ヲ國內ニ輸入スルコトア
レハ其影響必ス物價ヲ騰貴シ後テ物品ノ輸入ヲ慫
慂シ貿易ノ權衡ヲ變更スルニ至ルノ説ヲ確信スル
モノナルカ故ナリ〔同シク二十二葉ヲ視ヨ〕
ト「ク」氏云ク若シ通貨全ク純然タル貨幣ヨリ組成
スルトキハ、金銀地金ノ輸出入ノ為メ國內ノ金銀地
金ニ五百萬封度乃至六百萬封度ノ増減ヲ暫時ノ間
ニ生スルコトアルモ、之カ為メ決シテ公衆ノ間ニ流
通スル貨幣ノ額高ヲ増減シ若シクハ價格ヲ高低セ
サルベシ、又一般ノ物價ニ影響セサルベシ、其決シテ
一般ノ物價ニ影響セサルヤ猶一般ノ物價ノ高低カ右
金銀地金ノ増減ニ影響セサルカ如シト論述スルモ

取テ荒唐無稽ノ妄想ニアラサルベシト信ス、ト「ク」
氏著ス所ノ一千八百三十九年ヨリ一千八百四十七
年ニ至ル間ノ物價史第二百二十五葉ヲ視ヨ〕
ニ「フルラルトン」氏其著ス所ノ通貨裁判法論ニ於テ、何
レノ國ニテモ國內ニ必ス巨額ノ蓄藏貨幣アツテ常
ニ金貨ノ濫出ニ應スルカ故ニ世間ニ流通スル貨幣
ハ少しモ増減スルコトナシト論セリ、是レ或ハ佛國
ニ於テ大ニ其狀勢アルヲ知ル
ニ「夫」金銀濫出ノ發生スル時ト云フハ、畢竟金ナル一
貿易品ヲ輸出スルカ有益ニナリタル時ト云フ義ニ
外ナラス、仮令斯ノ如キ時ノ到來スルコトアルモ其
需用ノ及フ所ハ國內ニ保有スル金銀地金ト銀行者
ノ準備貨幣トニアツテ、直接ニ世間ニ流通スル貨幣

ニ影響スルモノニアラス、或ハ假リニ之ニ影響スル
コトアリトスルモ右金銀地金及ヒ準備貨幣全ク流
出シ尽キテ、終ニ流通ノ為メニ貨幣ヲ需要スル人々
ト輸出ノ為メニ貨幣ヲ需要スル人々トノ間ニ競争
ヲ顯出スルニ至ラサレハ決シテ流通貨幣ニ影響セ
サルナリ、サレモ國內ノ通貨交換紙幣ニシテ金銀監
出ノ未タ新ノ如ク甚シキニ至リレヲ見ス、唯ニ之ヲ
見サルノミナラス余輩ハ云何ナル情勢ニ際スレハ
斯ノ如ク甚シキニ至ルヘキ乎ヲ想像スルダモ能ハ
サルナリ「ウイールソン」氏著ス所ノ財本通貨銀行三論
第六十五葉ヲ視ヨ
甲國ヨリ乙國ニ巨額ノ金額ヲ拂渡スコトアルモ之
ヲ銀行者ノ準備金ヲ以テ支辨シ甲乙何レノ國ニ於

テ少シモ其通貨ノ額高並ニ其價格ニ影響セサルナ
リ、「コスセル」ヲ「ロースキ」氏著ス所ノ「トランス」第
一百二十五葉ヲ視ヨ

四※夫レ甲國ヨリ乙國ニ金銀地金ノ流出スルハ諸國金
利ノ高低ニ由ルコト多クシテ物價ノ浮沈ニ由ルコ
ト少ナキノ論ハ目今既ニ理財家ノ多ク認許スル所
トナレリ、「シヨン」スター「ミル」氏著ス所ノ經濟論第

三編第八章第四節ヲ視ヨ

余ノ所見ニ拠レハ一千八百四十四年決議銀行條例ノ
通貨上ニ及ホス效力タルヤ、其困難危急ノ時ニアラス
シテ其繁榮隆盛ノ時即チ災害ノ種子カ之ヲ嫩生スル
ニ適當ノ地ニ撒カルハノ時ニアリ

一千八百二十六年ニ於テ「トール」氏論シテ云ク、夫レタ

少ノ盛衰浮沈ハ貿易上決シテ免カルベカラサルモノ
ナリ、視ヨ生産事業即チ物品ノ供給事業ハ決シテ其盛
衰ノ定レルモノニアラス、人唯不充分ノ見込ヲ以テ之
ニ從事スルニ過キス、故ニ其事業ノ盛衰ハ收穫ノ豊歉
ト社會ノ變動變化ノ情況トニ由ル、又消費即チ物品ノ
需用ハ習慣時様法制ノ變遷及ヒ政治上ノ變動變化ニ
由テ増減伸縮スルモノナリ、而テ一方ニ於テハ投機企
事ノ氣風ヲ揮擢シ、又一方ニ於テハ期望心ヲ挫シキ日
算ヲ破ルカ如キ變事變狀ノ社會ニ發生スルヤ其數実
ニ計ルヘカラサルナリ、同氏著ス所ノ通貨事情第六十
五葉ヲ視ヨ

通貨主義ノ論者ニシテ紙幣ニハ常ニ過度發行ノ弊害
アルヲ論シ、且ツ投機起業ノ風勢一度ヒ發生スルヤ公

セシ

衆ハ必ス前ヨリ一層巨額ノ銀行紙幣ヲ銀行ヨリ受取
ルベシ、而テ其増加紙幣ハ忽チ世間ノ流通上ニ顯ハレ
物價ヲ騰貴シ、尚一層投機ノ風勢ヲ慫慂シ終ニ仕込過
キ及ヒ過度生産ノ弊害ヲ醸生スルニ至ルベシト主張
スル人々ハ猶一千八百四十四年ノ決議條例ニ一大效
力アルヲ斷言スルヲ得ヘキナリ

夫レ該銀行條例ニ貿易上ノ困難危害ヲ鋤除スルノ效
力ナキモ其數ヲ省キ其毒害ヲ減スルノ功カアラハ其
條例ノ目的ヲ達シタルモノト云フモ敢テ過言ニアラ
サルベシト信ス、抑モ投機ノ風潮ヲ制シ之カ為メ生産
貿易上ニ來スヘキ惡結果ヲ止ムルハ寶貨法制ノ決シ
テ及ハサル所ナリ、何トナレハ元來寶貨ナルモノノ効
力ハ唯貿易ヲナスノ器具タルニ外ナラス、蓋シ其正當

ノ用方ヲ誤ルトキハ之ニ害惡ヲ働クヘキ非常ノ力勢アリト云フノ主義ニ就テハ、其實例ノ説明固ヨリ多シト雖トモ、之ヲ正當ニ使用スルトセンニ寶貨ノ職務ハ甚々單純ニシテ其勢力モ亦自カラ限リアルモノナリ、夫レ正統ノ職務トハ何ソ即チ交易ノ媒介トシテ之ヲ使用スレハ物品ヲ交易スルノ方ヲ省キ又貸借上ニ於テ人々相互ノ貸借高ヲ秤量記録スルノ大功力是ナリ、是レ寶貨ニ固有スル職務ノ全局トス、夫レ寶貨ハ害惡ヲ働クニ無限ノ力勢ヲ有スルモノト雖トモ其利益ト稱スヘキ所ハ既ニ上文ニ記載セシ如ク右正統ノ職務ニ外ナラサルナリ

銀行紙幣ハ世間ノ所要ニ過度ノ額高ヨ發行流通スルノ傾向ヲ免カレサルモノトセ、一千八百四十四年ノ

決議銀行條例ニ、貿易及ヒ生産事業ヲ將來ニ攪乱スヘキ投機仕込過キノ氣勢ヲ醸成スルノ時ニ當リ、早クモ紙幣ノ發行ヲ制限スルハ效力アルハ確乎トシテ疑フヘカラサルナリ、然リト雖トモ金貨濫出ノ時ニ際シ該銀行條例ニ、支配人ノ取扱云何ニ拘ラス、金銀地金ノ減少ニ應シテ紙幣ノ發行ヲ減額スヘキ效力ナキハ固ヨリ当然ノ事ニシテ、「ベレラツト」氏ノ論スルカ如ク投機ノ毒勢ヲ制御スルノ問題ハ元來寶貨上ノ問題ニアラスレテ商業上ノ問題ナリ「ベジラツト」氏著ス所ノ「ロムバルド、ストレー」第五十二葉ヲ視ヨ

理財上ノ狼狽騷擾ヲ抑制スル方法ヲ論ス
抑モ理財上ノ狼狽騷擾タルヤ、寶貨法制ノ良否ニ從テ

之ニ大小寡ノ別ヲ生スト雖トモ、全ク之ヲ抑制スル
事ニ至テハ寶貨上ノ法制ノ能ク及フ所ニアラス、然ラ
ハ云何シテ狼狽騷擾ノ害ヲ抑制シ得ヘキ乎、夫レ此危
害ヲ抑制スルノ方法ハ紙幣ノ流通高ヲ減縮スルカ如
キ酷策ニアラスシテ、國內全工業者商業者カ協力ノ保
助ヲ以テ第一ニ攻撃セラレタル會社若シクハ人々ヲ
救援スルニアルナリ、蓋シ狼狽騷擾ノ一度ハ發生セシ
時ニ當テヤ、其患害ノ紙幣ヨリ起ルト然ラサルトラ論
セス、社會中既ニ其患害ヲ蒙ムリシモノアラサルヲ得
ス、然リ而テ右患害ヲ醫治スルノ方略ハ必シモ紙幣ノ
流通高ヲ減縮スルカ如キ強制ノ方策ニ限ラサルナリ、
況ンヤ此患害ノ原由ナル紙幣ノ減縮シテ以テ其患害
ヲ醫治セント企圖スルニ於テモヤ、是レ恰モ原ト傷ヲ

與ヘシ兵器ニ其傷ヲ醫治スル格別ノ效驗アリト信セ
シ中世時代ノ執迷ニ異ナラス
抑モ理財上ノ狼狽騷擾タルヤ、或ハ確乎タル需用ノ目
的ナキニ空漠タル希望ヲ以テ前ヨリ過度ノ買込ヲナ
シ過度ノ生産ヲ起スコトヲ指シ、或ハ突然驚クヘク不
意ニ流通財本ヲ愛シテ利用ニ限リアル乎若シクハ屢
々全ク不用ナル固着財本トナスヲ言フナリ、時トシテ
紙幣此患害ヲ德憑煽動シ以テ其一禍源トナルコトナ
リ、然リト雖トモ其禍源ノ何タルヲ問ハス狼狽騷擾一
度ニ國內ニ釀生スルニ當テヤ之ヲ醫治スルノ方法ハ
唯可成丈廣ク一所ノ困難ヲ諸所ニ擴散分配シ之ヲ寬
緩ナラシムルノ一手段アルノミ、云何ナル方便ヲ以テ
此手段ヲ施スヘキ乎、是レ他ナシ唯貸借ニ由テ此手

段ヲ實施シ得ヘキナリ夫レ紙幣ハ仮令該患害ヲ惹起
セシ原由ナルモ一度ハ狼狽騷擾ノ發生セシ時ニ當テ
之ヲ醫治スルノ効力ナキヤ、猶人ニ傷ヲ與ヘシ小刀ハ
驗屍官ニ取テ甚タ緊要ナリト雖トモ醫師ノ目的ニ少
シノ用ヲナサルナリ

一、一千八百四十六年及ヒ一千八百四十七年ニ壞烈
タル災害ニ先テ鐵道開設ノ氣勢盛ナリシ時ニ當リ
流通財本ヲ固着財本ニ變スルコトノ英國ニ夥多ナ
リレハ「ウイルソン」氏ノ説ヲ見テ知ルヘキナリ「同氏
著ス所ノ財本通貨銀行三編ヲ視ヨ」

一千八百七十四年「ワレンント」府ニ於
テ銀行事業並ニ通貨ノ調査委員ニ向テ一千八百七
十三年間「ユーヨーク」銀行事業ノ行情ニ就キ左ノ

如ク報告セリ、乃テ同年ニ於テ尋常正統ノ事業ヲ維
持スルニ必需ノ財本ハ實際皆鐵柵、鐵道、左右兩鐵路
ノ結附具、及ヒ橋梁等ヲ建設スルニ貸附セラレタリ、
而テ右鐵道等ハ多ク實際無用無益ノ場所ニ開設セ
ラレタリ

「コンデーラグエト」氏當テ「ペンシルバニア」ノ内土木
ノ改良工作ニ就テ左ノ如ク論述セリ、抑モ内地ニ開
起セシ工作タルヤ、石、石灰、木、鉄、ラレテ有價ノ形体
リ無價ノ形体ニ變形シタルニ外ナラス、而テ又麵包、
肉、大麦、酒、糖水酒、牛酪、牛乳、砂糖、珈琲、長表衣、短表衣、石
炭、材木、乾草、燕麥、ヲ變シテ鐵道掘割トナレ以テ再ヒ
原体ニ復スルノ手段ナカラシメリ「同氏著ス所ノ通
貨並ニ銀行二編第六十三葉ヲ視ヨ」

余輩ハ今ニ此處ニ再討セントス、夫レ理財上ハ狼狽騷擾ハニ様ノ變動ヲ指示スルニ外ナラス、乃チ投機ノ風潮ニ流動セラレ登天ノ期望ヲ以テ或空漠タル事業ニ巨額ノ資本ヲ卸レ為メニ固着財本ト流通財本トノ間ノ權衡ヲ甚シク混乱セシ状況ヲ指示スルニアラサレハ、投機心ヨリ過度ノ買込ヲナレ及セ或物品ヲ過度ニ生産シタルカ為メ國內ノ流通財本ヲ組織スル諸物品ノ内ニ於テ甲物品ト乙物品トノ間ノ權衡ヲ錯乱轉倒シタル事實ヲ指示スルモノナリ

銀行紙幣ハ今日既ニ世人ノ深ク信スル所ニシテ要求ニ應レテ交換セラルヘキ事ニ就テハ一人モ之ニ疑惑ヲ容レサル所ナルカ故ニ将来交換ノ為メ銀行ニ奔走催促スルカ如キ騷擾ノ決シテアラサルヲ信

ス、蓋シ斯ノ如キ紙幣交換ノ催促騷擾ハ現今英國ニ於テ夢想タニ見サル所ナリ、「プロフェッショナル」氏ノ如キハ種々ノ点ヨリ嚴酷ニ一千八百四十四年ノ決議銀行條例ヲ批評セシ人ナレモ該條例ハ地方銀行紙幣ヲシテ其當テ一千八百二十五年ニ受ケレ世人ノ疑惑ヲ脱却セシメタル功果アルコトヲ是認セリ、是レ余輩ノ上文ニ於テ既ニ觀察セシ所ナリ夫レ固着財本ト流通財本トノ間ノ權衡ニ混乱ヲ生若シクハ甲流通財本ト乙流通財本トノ間ノ權衡ニ轉倒錯乱ヲ起シタルカ為メ、第一ニ困難セシ人々ヲ救援シ機ニ後レス右工業貿易者中一部分ノ困難ヲ可成ス廣ク全社會ニ分配スルノ方畧ハ、即チ所謂狼狽騷擾ヲ醫治スヘキ政策ナリ、而テ此政策ヲ實行スヘキ方法ハ

上文ニ開陳セシ如ク、臨時ノ貸借ニ據テ一時煙眉ノ急
ヲ救フモノ是ナリ、勿論此方法ニ據レハトテ借入レタ
ル金額ハ到底償還セサルヲ得ス、又法外ノ買込ヲナス
時ニ當テ、免カルヘカラサル生計ノ奢侈放蕩ニ浪費
タル富實ヲ回復スルカ如キ或ハ猶時機熟セサルニ巨
額ノ資金ヲ投機事業ニ卸シ以テ之ヲ死地ニ入レ目今
實際ニ全ク其活動運用ヲ失ヒモノヲ原休ニ復スル
カ如キハ固ヨリ政畧ノ能ク及フ所ニアラス、勉業ト節
儉ヲ除クノ外未タ富實ノ消耗ヲ補償シ得ルモノハア
ラサルナリ、一千八百六十六年ニ英國ニ起リ一千八百
七十三年ニ合衆國ニ起リシカ如キ狼狽騷擾ハ蓋シ驚
クヘキ巨額ノ財本ヲ浪費セシ結果ナリ、此費用ヲ補償
セシモノハ勉業ト節儉ノ二事ニアルノミ、然リト雖ト

ニ生産事業及ヒ貿易ヲ將ニ倒レニトスルニ保持スル
政畧ハ上文ニ論セシ如ク、第一ニ攻撃セラレタル人々
ノ困難ヲ多人数ノ中ニ分配シ以テ之ヲ寛緩ニシ、回復
ヲ圖リ補償ヲナスノ猶豫時間ヲ與フルニアリ、而テ此
政畧ヲ實行スヘキ方法ハ左ニ開示スル利息ノ割合ニ
騰貴スルニアルナリ

利息ノ割合ヲ騰貴スル方法ヲ論ス

「ゴスセー」氏云ク何國ヲ論セス外國為換明カニ其國ニ
不利ノ状態ヲ示シ、而テ其不利ナル所以ノ原由ハ全ク
貿易上ノ相互貸借其平均ノ權衡ヲ得サルニアルヲ認
ムル時ニ當リ、談權衡ヲ回復スルノ方略ハ唯二種ノ手
段ニ外ナラス、乃チ甲、輸出ヲ増加シ輸入ヲ減縮スル

コト是ナリ、ハ利息、割合ヲ騰貴スルコト是ナリ
輸入品ノ代價拂渡金額カ輸出品ノ代價請取金額ニ超
過スルコト時又シテ接續スルニ當テヤ其權衡ノ平準
ヲ回復スルノ手段ハ唯外國ニ負債ヲ生セサランコト
ヲ勉ムルノ方畧即チ輸出ヲ増シ輸入ヲ減スルカ如キ
貿易上ニ變化ヲ起スノ外他ニ手段ナキヲ知ル、云々然
リト雖トモ余輩ノ今此處ニ論究セント欲スルノ主義
ハ斯ノ如ク時又シテ接續スルカ如キ非常ノ不平均ヲ
醫治スル方法ニアラスレテ、平生屢々外國貿易上ニ生
生スル權衡ノ變動即チ内國ニ收穫ノ凶歉アルカ如キ
若シクハ非常ノ軍費アルカ如キ若シクハ國內一般ニ
浪費奢侈ノ事アツテ物價ヲ騰貴シタルコトアルカ如
キ原由ヨリ惹起シタル權衡一時ノ浮沈動搖ニ高利ノ

影響スル效カヲ論述スルニアルナリ
夫レ内國ノ物産ニ一時ノ萎靡ヲ顯ハシ輸入忽チ輸出
ニ超過シ其國ノ負債益々増加スルカ如キ時ニ當リ、速
ニ此患害ヲ醫治スルノ手段ハ唯利息ノ割合ヲ騰貴ス
ルニアリ、銀行者及セ商人ハ勿論一般公衆カ此理由
諒解シ之ヲ實際ニ舉行スルハ斯ノ如キ貿易不權衡ノ
時ニ際シ甚々緊要ノ事ナリ、又國家ノ幸ト言フベシ、況
ヤ斯ノ如キ貿易ノ情勢ニ際シ利息ノ騰貴スルハ其自
然ノ成果ニシテ強テ之ヲ騰貴スルニアラス、然ルニ之
ヲ抑制シテ騰貴セサランコトヲ望ムハ誤謬モ亦甚シ
キモハト言ハサルヲ得ス、論者アリ壓制高利ト名クル
モノハ、右貿易ノ不權衡ナルカ為メ社會ノ既ニ非過セ
レ損害困難ヲ増スニ迫キスト論スルハ是レ甚シク尤

解ヲ誤リレモノナリ云々高利ニ余輩ノ上文ニ縷々陳述セシ所謂貿易ノ不權衡ヲ回復スル効カアルハ、抑モ英國銀行カ割引ノ最小割合ヲ前年ヨリモ一層神速ニ且廣大ニ變化スル方略ヲ採用セシ以來既ニ實地ノ經驗ニ由テ十分ニ該効カラ證明セシ所ナリ、乃チ實地ノ經驗ニ由テ知り得タル事實ハ即チ英國銀行其割引ノ割合ヲ騰貴スル毎度ニ外國為換ノ權衡英國ニ利トナリ、之ニ反シテ利息ノ割合ヲ低落スルトキハ外國為換必ス英國ニ不利トナリシコト是ナリ、云々蓋シ利息ノ割合騰貴スルコトアレハ外國ノ債主必ス英國ノ借主ニ償還ノ延期ヲ與ヘ暫ラク送金ヲ英國ニ留メ置キ以テコノニ高キ割合ノ利息ヲ得ト企圖スベシゴスセシ氏又左ノ如ク決案ヲ掲載セリ、乃チ云ク金貨ノ溢出

及ヒ之ニ從フ各種ノ惡結果ヲ醫治スルノ方略ハ速ニ割引ノ割合ヲ騰貴スルヨリ効力ノ著シキモノアルヲ知ラス、夫將ニ損失セントスルモノヲ保持シ若シクハ既ニ損失セシモノヲ補償スヘキ方略ハ右利息ノ割合ヲ騰貴スルノ唯一手段アルノミ、而テ該利息騰貴ノ方略ヲ実行スルヤ其結果ハ寶貨ノ欠乏ヲ生スルニアラスシテ、海外各國ヲ德憑シ其財本若シクハ寶貨ヲ我高利ノ市場ニ送ラシムルノ效アルカ故ニ必ス國內寶貨ノ欠乏ヲ醫治補償シ得ヘキナリ〔同氏著ス所ノ外國為換論第一百二十八葉及ヒ一百四十八葉ヲ視ヨ〕

一、コノニ寶貨ノ欠乏ト云フモノハ「ゴスセン」氏必ス金銀地金ノ欠乏ヲ指スナルベシ

上ニ論述スシ外國為換ノ權衡ヲ制理スル方略ハ現今

英國ニ於ニ一般ニ是認セラレ、一千八百四十二年ニ壞
烈シタル狼狽騷擾以來金貨濫出ノ時ニ際シ英國銀行
ノ行為ヲ束制シタル方策ナリ、蓋シ此方策タルヤ大ニ
「リカルド」氏「ノルマン」氏及ヒ「ロルド、タバーストン」氏ノ
主張セシ方策ト異ナレリ、サレモ二方策必シモ實際ニ
於テ全ク相背馳スルニアラス、金貨濫出ノ原由ニ就キ
其見解ヲ異ニスルカ故ニ自カラ其患害ヲ醫治スル方
法モ亦殊異スルナリ
然リト雖トモ論者多ク疑問シテ云ク、現行利息ノ割合
ハ寶貨ノ現行供給ト現行需用トヨリ生シタル必然ノ
成果ニアラサル乎、若シ果シテ其必然ノ成果ナリトセ
ハ英國銀行ハ云何ナルカ勢アツテ其必定ノ割合ヲ變
動シ得ル乎ト、而テ英國ノ理財家多ク理財ヲ語ルニ當

此論潮ニ流動セシハ自カラ蔽フヘカラサルナリ、有
名ナル「ゴスセン」氏ト雖トモ亦本論潮ニ屈撓シ許多ノ
例外ヲ自己ノ持論ニ許スニ至ル、嗚呼若シ其例外ヲ尽
ク是認セハ其論ノ貴重ナル所ハ全ク鋤除セラレ同氏
ノ著セシ外國為換ノ理論モ實地ノ標準トスルニ足ラ
サルベケン乎

同氏左ノ如ク論述スルヲ觀ル、乃チ云ク利息ノ割合ヲ
騰貴スルト言ハハ恰モ人造ヲ以テ寶貨ノ價格ヲ騰貴
スルカ如ク聞ユレト實際ノ事實ハ決シテ然ラサルナ
リ、上文ニ於テ既ニ同陳セシ如ク巨額ノ金貨海外ニ濫
出スル時ニ當テヤ利息ノ騰貴スルハ其情勢ニ自然ノ
理由ナリ、故ニ金銀地金若シ海外ニ積出サン為メニ國
内ニ其欠ルヲ告グルトキハ必ス自カラ利息ヲ騰貴ス

ルニ至ル、此時ニ際シ諸銀行ハ又自己ノ利ヲ圖リ〔但シ
右ノ如イ情勢ニ際シテヤ銀行ノ私利ハ又公衆ノ利益
トナルナリ〕可成丈利息ノ騰貴ヲ悠憑スベシ、〔同氏著ス
所ノ外國為換論第一百三十二葉ヲ視ヨ〕又云ク英國銀
行ハ仁忘ニ寶貨ノ利息ヲ高低シ能フベシト想像スル
ハ大ナル誤謬ナリ、又云ク英國銀行ニ於テ割引最小ノ
割合ヲ適宜ニ變化スル法制ヲ緊要ナリトスル所以ノ
理由ハ決シテ貸借市場ニ向テ利息ノ割合ヲ裁制スル
權ヲ該銀行ニ與フルノ故ニアラス、該銀行ヲシテ貸借
市場ニ顯ハレタル徵候ニ從ヒ能ハシムルニアリ、〔同シ
ク外國為換論第一百三十三葉ヲ視ヨ〕
右ハ「ゴスセン」氏ノ卑屈ナル論點ニシテ自己ノ定説タ
ル外國為換論ノ理由ヲ大ニ傷ケシモノト云フベシ、今

示シ此ニ聰明ナル理財家「チャールレスバグベージ」氏ノ
明論ヲ參觀セハ右「ゴスセン」氏ノ欠點ヲ補フニ足ルベ
シ、乃チ「チャールレスバグベージ」氏云ク夫レ物ノ價格ハ
何レノ時ヲ問ハス必ス需用ト供給トノ關係ノ情勢云
何ニ由ルト云フノ財理ハ決シテ一般ニ應用セララル
キ理由ニアラス、唯其物品ヲ供給スル者皆許多ノ小供
給者ニシテ之ヲ需用スル者モ亦許多ノ小需用者ニ止
マルノ場合ニ十分應用セララルヘキヲ觀ル〔同氏著ス所
ノ製造的理財論第一百四十一葉ヲ視ヨ〕
右ノ主義ニ就キ「ベジラット」氏ハ左ノ如ク闡陳セリ、物
品ノ大供給者若シ任意ニ其物品ノ最小價格ヲ確定シ
頑固ニ之ヲ保持スルコトアラハ、一時必ス著シク該物
品ノ價直ニ影響スベシ、蓋シ「ロムバールド」街ニ於テ英國

銀行カ寶貨ノ價格ヲ裁制スルコトアルハ即チ此理由
ニ因ルナリ英國銀行ハ往時ヨリ寶貨ノ大供給者ニシ
テ今日モ猶最モ緊要ナル供給者ナリ故ニ該銀行若シ
一度ヒ寶貨ノ最小價格ヲ確定シ恃リ其價格ヲ以テ割
引ヲダスコトアラハ之カ為メ他ノ小供給者モ其價格
若シクハ之ニ近キ價格ヲ以テ割引ヲ為シ得ルニ至ル
ベシ〔同氏著ス所ノ「ロムバルド、ストレー」ト第一百一十
四葉ヲ視ヨ

和蘭國ノ糶賣ニ於テハ賣手先ツ其賣品ノ最大價直
ヲ確定ス而テ買手ノ之ヲ買フニ至ル迄漸次ニ其價
直ヲ低落セリ「ロムバルト、ストレー」ニ於テ銀ハ其
寶貨ノ價格ヲ確定スルノ方法ハ右糶賣ニ異ナルコ
トナシ其之ニ異ナル所ハ唯萬賣手ノ賣價ヲ確定ス

五三

ルニアラサレテ其供給ノ若干ヲ社會ノ需用ニ欠ク
ベカラサル一大緊要ナル賣手ノ賣價ヲ確定スル些
末ノ差異ニ外ナラス

右ニ引用セシ説明ハ割引ノ割合ニ英國銀行ノ關係ス
ル重大ナルコトノ見解ナリ此見解ニ由テ「ゴスセシ」氏
ノ論述セル外國為換ノ權衡ヲ制理スル理論ノ欠ヲ補
ヒ以テ之ヲ實地ニ緊要貴重ナル議論タラシメリ



